

科目

【英】	生物学 【Biology】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	48	単 位	3
学 年	1 年生	学 期	1. 2 学期	曜 日	金曜	時 限	2 限

担当教員	高木 健之	実務者経験	専門学校臨床施設にて2年間施術、実務経験を積む				
------	-------	-------	-------------------------	--	--	--	--

学習内容	基礎医学を学ぶ導入段階として、生物学のヒトに関する生物現象を学ぶ。						
到達目標	生物学の知識格差を無くし、並行して基礎医学を学ぶことで基礎医学への学びが円滑になること。						

準備学習 時間外学習							
使用教材	配布資料						
留意点 備 考							

成績評価	本試験 100%						
------	----------	--	--	--	--	--	--

1 学期 授業計画【内容・目標】		
1	人体の構成	細胞や組織など人体を構成するものを列挙できる。 細胞小器官などの機能の説明ができる。
2	循環器系	循環器系の解剖学的用語を列挙できる。
3	循環器系	心臓からの循環について説明できる。
4	呼吸器系	呼吸器系の解剖学的用語を列挙できる。
5	呼吸器系	呼吸運動や呼吸の生理学について説明できる。
6	消化器系	消化器系の解剖学的用語を列挙できる。
7	消化器系	消化器の機能を説明できる。
8	泌尿生殖器系	泌尿器、生殖器の解剖学的用語を列挙できる。
9	泌尿生殖器系	泌尿器生殖器の機能を説明できる。
10	1 学期の復習	
11	試験	試験
12	まとめ	

2 学期 授業計画【内容・目標】		
1	1 学期の復習	人体の構成～泌尿生殖器系までの総復習
2	内分泌系	内分泌腺の解剖学的用語を列挙できる。
3	内分泌系	内分泌系の機能、内分泌物の作用について説明できる。
4	神経系①	中枢神経系の解剖学的用語を列挙できる。
5	神経系①	中枢神経系の機能を説明できる。
6	神経系②	末梢神経系の解剖学的用語を列挙できる。
7	神経系②	末梢神経系の機能を説明できる。
8	感覚器系	感覚器系の解剖学的用語を列挙できる。
9	感覚器系	感覚器系の機能を説明できる。
10	2 学期の復習	
11	試験	
12	予備日	

科 目

【英】	コミュニケーション学 【Communication Studies】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	48	単 位	3
学 年	1 年生	学 期	1.2 学期	曜 日	1 学期：木曜 2 学期：水曜	時 限	2 限

1 学期 担当教員	吉川 征延	実務者経験	2004 年～2005 年 新淡路病院にて臨床心理士として従事 2005 年～ 阪南病院にて臨床心理士として従事
2 学期 担当教員	筒井 優介	実務者経験	2014 年～ 奈良県橿原市こころのケアルーム事業スクールカウンセラー 2015 年～ 兵庫県スクールカウンセラー 2015 年～ 社会医療法人弘道会なにわ生野病院 心療内科 2015 年～ 公立学校共済組合大阪支部 大阪メンタルヘルス総合センター 上記施設などにて臨床心理士として従事

学習内容	社会人として必要な基礎学力の向上を図る。
到達目標	文章を読み、論理的に書くことを学ぶ。次にグループワークを通して、各自の意見を尊重しながらも、自分の見解を適切に伝えることができるようになる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	【配布資料】あり
留意点 備考	

成績評価	本試験 60% 平常点 40%
------	-----------------

2 学期 授業計画【内容・目標】		
1	心理学とは	講義の進め方、オリエンテーション、心理学とは
2	人の行動（１）	行動と欲求、動機づけ、葛藤・欲求不満、学習
3	人の行動（２）	レスポナント条件付けとオペラント条件付け、社会的学習、記憶
4	生涯発達	ライフサイクル、乳児期～児童期の心理的発達と心の問題 青年期～老年期の心理的発達と心の問題
5	対人関係（１）	対人関係における心理的要因、対人行動 集団の中の人間関係
6	対人関係（２）	対人関係における心理的要因、対人行動 集団の中の人間関係
7	コミュニケーション（１）	言語的、非言語的コミュニケーション
8	コミュニケーション（２）	コミュニケーションスキル
9	パーソナリティ	パーソナリティの分類、心理テスト
10	ストレス	ストレスとは、ストレス関連疾患、自我防衛機制
11	試験	試験
12		

科目

【英】	解剖学① 【Anatomy】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	72	単 位	4
学 年	1 年生	学 期	通 年	曜 日	1 学期：火曜 2 学期：土曜 3 学期：水曜	時 限	1 学期：1 限 2 学期：1. 2 限 3 学期：2 限

担当教員	藤田 和樹	実務者経験	2012 年～2015 年 整骨院勤務 治療補助など担当 2009 年～高校ラグビー部トレーナー兼同 AT 業務全般担当
------	-------	-------	---

学習内容	筋骨格系の名称を学ぶ 骨の構造、関節構造を学ぶ 筋の作用よりどのような運動が起きるかを学ぶ
到達目標	ヒトの骨の名称を列挙できる ヒトの骨の部位の名称を列挙できる ヒトの筋の名称を列挙できる 筋の作用を筋の名称と併記できる 運動により起きる障害が想起できる

準備学習 時間外学習	配布資料の事前確認 解剖学教科書の内容確認
使用教材	配布資料【ファイル】 医歯薬出版解剖学第2版 医学書院プロメテウス解剖学コアアトラス第3版
留意点 備考	資料を事前に確認しておくこと グループワークの際は積極的に参加すること

成績評価	平常点：30%【小テスト：10 点満点】 本試験：70%【筆記試験：100 点満点】
------	--

1 学期 授業計画【内容・目標】		
1	身体の構造など 骨の分類・構造	解剖学 骨細胞 長骨・短骨・扁平骨など 運動の名称を列挙できる
2	関節の分類・構造 全身の骨格	滑膜性関節 関節の動き 全身骨格の名称 全身骨格の名称を列挙できる
3	大腿骨	骨の名称 骨上のランドマーク FTA 大腿骨上にあるランドマークを列挙できる
4	脛骨・腓骨	骨の名称 骨上のランドマーク 脛骨・腓骨上にあるランドマークを列挙できる
5	足部	骨の名称 骨上のランドマーク 距骨の構造 足部の骨の名称を列挙できる 距骨の構造を説明できる
6	骨盤【寛骨】	骨の名称 骨上のランドマーク 男女の差 寛骨上のランドマークを列挙できる 寛骨の男女差を説明できる
7	肩甲骨・上腕骨・ 鎖骨	骨の名称 骨上のランドマーク 上肢帯・自由上肢【上腕骨】上のランドマークを列挙できる
8	橈骨・尺骨・手部	骨の名称 骨上のランドマーク 自由上肢【前腕・手部】上のランドマークを列挙できる 手根骨の並びを説明できる
9	体幹の骨 椎骨・肋骨など	骨の名称 骨上のランドマーク 椎骨【頸椎～腰椎・仙骨】の個数を説明できる 椎骨の基本構造を説明できる 各椎骨のランドマークを列挙できる 肋骨上のランドマークを列挙できる
10	復習	全身の骨の復習
11	試験	
12	予備日	試験返却 解答解説 頭蓋骨の名称 頭蓋骨の名称を列挙できる 各頭蓋骨の特徴を説明できる

2 学期 授業計画【内容・目標】		
1	筋肉について	分類 役割 動き方 全身にある筋肉の特徴を説明できる
2	全身の筋	全身の骨格筋について 全身の骨格筋の名称を列挙できる
3	運動について	てこ 力学 トルク 運動学基礎【てこ、トルクなど】について説明できる
4	下肢の筋	寛骨に付着する筋 寛骨に付着する筋の名称を列挙できる 寛骨に付着する筋の作用を説明できる
5	下肢の筋	大腿部の筋 大腿部に付着する筋の名称を列挙できる 大腿部の筋の作用を説明できる
6	下肢の筋	下腿・足部の筋 下腿・足部の筋の名称を列挙できる 下腿・足部の筋の作用を説明できる
7	下肢の運動	股関節・膝関節・足関節の運動とてこ 下肢の運動のてこを説明できる
8	上肢の筋	肩甲骨に付着する筋 肩甲骨に付着する筋の名称を列挙できる 肩甲骨の筋の作用を説明できる
9	上肢の筋	上腕部の筋 上腕部の筋の名称を列挙できる 上腕部の筋の作用を説明できる
10	復習	2 学期の復習
11	試験	
12	予備日	試験返却 解答解説

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	上肢の筋	上腕部の筋・前腕部の筋・手部の筋 上肢の筋の名称を列挙できる
2	上肢の運動	肩関節・肘関節・手部の運動とてこ 上肢の運動を説明できる
3	体幹の筋	胸部・腹部の筋 胸腹部の筋の名称を列挙できる
4	体幹の筋	背部・頸部の筋 頸部・背部の筋の名称を列挙できる
5	体幹の運動	体幹の運動 体幹の運動を説明できる
6	顔面の筋・運動	表情筋 表情について 表情筋の特徴を説明できる
7	局所解剖	全身の局所解剖 全身の筋の名称を列挙できる 局所解剖について説明できる
8	神経支配 体表観察	各筋肉の支配神経 体表から触知できる筋肉 全身の支配神経を分類できる
9	運動連鎖	OKC・CKC SSC について OKC・CKC・SSC を説明できる
10	復習	3 学期の復習
11	試験	
12	予備日	試験返却 解答解説

科 目

【英】	解剖学② 【Anatomy】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	72	単 位	4
学 年	1 年生	学 期	通 年	曜 日	火曜	時 限	2 限

1 学期 担当教員	高木 健之	実務者経験	専門学校臨床施設にて2年間施術担当、実務経験を積む				
2,3 学期 担当教員	柴田 雅朗	実務者経験	1999年4月～大阪医科大学医学部に所属。 解剖学・組織学の講義、人体解剖に携わっている。				

学習内容	人体の組織的および肉眼的系統解剖学について学ぶ。						
到達目標	身体を構築する各臓器の構造を機能とともに理解する						

準備学習 時間外学習	解剖学用語は医学的な用語、漢字が多いので読み方がわからないときは辞書を用いて予習しておくこと						
使用教材	解剖学 東洋療法学校編						
留意点 考 考	3Dで理解できるソフト、アプリなどを活用できると良い						

成績評価	本試験 90%、平常点 10%						
------	-----------------	--	--	--	--	--	--

1 学期 授業計画【内容・目標】		
1	人体の構成 1	細胞の構造、細胞分裂 細胞構造、細胞分裂について説明できる。
2	人体の構成 2	組織 各組織について名称を列挙できる。
3	人体の構成 3	組織、体表構造、人体の方向と区分 組織、体表構造、人体の方向と区分について説明できる。
4	循環器系 1	血管系、心臓 血管系について説明できる。 心臓の部位の名称を列挙できる。
5	循環器系 2	動脈系 動脈系について説明できる。 各部の動脈の名称を列挙できる。
6	循環器系 3	静脈系 静脈系について説明できる。 各部の静脈の名称を列挙できる。
7	循環器系 4	胎児循環、リンパ系 胎児循環について説明できる。 リンパ系に関連する名称を列挙できる。
8	循環器系 5	予備日
9	呼吸器系	鼻腔・副鼻腔、咽頭・喉頭、気管・気管支、肺 呼吸器系各部の名称を列挙できる。
10	復習	予備日、復習問題
11	試験	試験
12	予備日	試験問題の解説と復習

2 学期 授業計画【内容・目標】		
1	消化器系 1	消化管の基本構造 消化管の基本構造について説明できる。
2	消化器系 2	口腔、咽頭 口、咽頭の部位の名称を列挙できる。
3	消化器系 3	食道、胃、小腸、大腸 食道～大腸までの部位の名称を列挙できる。
4	消化器系 4	肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜 肝臓、胆嚢、膵臓について説明できる。 腹膜について説明できる。
5	泌尿器系	腎臓、尿路 腎臓、尿路の部位の名称を列挙できる。 泌尿器系の構造を説明できる。
6	生殖器系 1	男性生殖器 男性生殖器の部位の名称を列挙できる。 男性生殖器について説明できる。
7	生殖器系 2	女性生殖器 女性生殖器の部位の名称を列挙できる。 女性生殖器について説明できる。
8	生殖器系 3	受精と発生 受精と発生について説明できる。
9	内分泌系	下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、副腎、膵臓、性腺 各内分泌器官の説明ができる。
10	復習	予備日、復習問題
11	試験	試験
12	予備日	試験問題の解説と復習

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	神経系 1	中枢神経系（1）脊髄、脳幹 中枢神経系の部位を列挙できる。
2	神経系 2	中枢神経系（2）間脳・大脳 間脳、大脳の説明ができる。
3	神経系 3	中枢神経系（3）脳室系、髄膜、脳脊髄液、脳の血管 脳脊髄液の流路について説明できる。 脳の血管の名称を列挙できる。
4	神経系 4	伝導路（1）反射路・下行性伝導路 反射路、下行性伝導路の名称を列挙できる。
5	神経系 5	伝導路（2）上行性伝導路 上行性伝導路の名称を列挙できる。
6	神経系 6	末梢神経系（1）脊髄神経 脊髄神経の名称を列挙できる。
7	神経系 7	末梢神経系（2）脳神経・自律神経 脳神経の名称を列挙できる。 自律神経について説明できる。
8	感覚器系 1	視覚器・味覚器 視覚器、味覚器の部位の名称を列挙できる。
9	感覚器系 2	平衡聴覚器・嗅覚器 平衡聴覚器、嗅覚器の部位の名称を列挙できる。
10	復習	予備日、復習問題
11	試験	試験
12	予備日	試験問題の解説と復習

科 目

【英】	生理学① 【Physiology】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	72	単 位	4
学 年	1 年生	学 期	通 年	曜 日	土曜	時 限	1.2 限

担当教員	杉本 公一郎	実務者経験	2009 年～2015 年 医療法人恵登久会 越川病院にて リハビリテーション室 室長として勤務 2016 年 すぎもと鍼灸整骨院を開設
------	--------	-------	--

学習内容	人体の機能を知り、代謝や運動がどのように行われているのかを学習する。
到達目標	生理学の基礎となる細胞の構造・機能、物質の代謝や生体のリズムおよび免疫機序に対する知識を習得し更に神経系の調節機能、筋の構造と働き、運動や感覚機能の仕組みを理解し習得する。

準備学習 時間外学習	
使用教材	【教科書】生理学 第3版 【配布資料】あり
留意点 備考	

成績評価	本試験 70% 平常点 30%
------	-------------------

1 学期 授業計画【内容・目標】		
1	生理学の基礎①	■ 生理学の特徴 ■ 細胞の構造と働き
2	生理学の基礎②	■ 物質代謝の仕組み ■ 体液の組成と働き ■ 物質の移動
3	ホメオスタシスと生体リズム	■ ホメオスタシス ■ 生体リズム
4	生体の防御機構①	■ 生体の防御機構と免疫 ■ 生体の防御機構に働く組織と因子
5	生体の防御機構②	■ 免疫反応の分類 ■ 炎症とアレルギー
6	神経①	■ 神経系概論 ■ ニューロンの構造と働き ■ 神経線維の興奮と伝導
7	神経②	■ 興奮の伝導と伝達
8	神経③	■ 中枢神経系・脊髄・脳幹・間脳
9	神経④	■ 小脳・大脳・大脳皮質の機能局在 電気活動
10	まとめ	
11	試験	
12	予備日	

2 学期 授業計画【内容・目標】		
1	神経⑤	■ 末梢神経系
2	内臓の自律神経性調節①	■ 交感・副交感神経系
3	内臓の自律神経性調節②	■ 自律神経伝達物質と受容体 ■ 自律神経の中樞 ■ 自律神経反射
4	感覚①	■ 感覚の一般 ■ 体性感覚 表在感覚
5	感覚②	■ 体性感覚 深部感覚
6	感覚③	■ 内臓感覚
7	感覚④	■ 痛みの抑制系
8	感覚⑤	■ 特殊感覚 味覚 嗅覚 聴覚
9	感覚⑥	■ 平衡感覚 視覚
10	まとめ	
11	試験	
12	予備日	

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	筋①	■ 骨格筋の構造と働き ■ 筋の収縮の仕組み
2	筋②	■ 筋のエネルギー供給の仕組み ■ 心筋と平滑筋の構造と働き
3	運動①	■ 骨格筋の神経支配
4	運動②	■ 運動の調節 ■ 脊髄レベルの調整 ■ 各種反射
5	運動③	■ 脊髄レベルの調整 反射 ■ 脳幹による運動調節 ■ 小脳による調節
6	運動④	■ 大脳基底核による調節 ■ 大脳皮質による調節 ■ 錐体路系と錐体外路系
7	臨床応用	■ 実技を含めた、生理学の臨床応用
8	まとめ	
9	1 学期復習	
10	2 学期復習	
11	試験	
12	予備日	

科 目

【英】	生理学② 【Physiology】			必修/選択	必須	授業形式	講義
				総時間数	72	単 位	4
学 年	1 年生	学 期	通 年	曜 日	1 学期：月曜 2 学期：月曜 3 学期：土曜	時 限	1 学期：2 限 2 学期：2 限 3 学期：1、2 限

担当教員	藤原 法香	実務者経験	2017 年 4 月～2018 年 10 月 鍼灸整骨院に所属 鍼灸整骨院にて鍼灸施術をおこなう。
------	-------	-------	--

学習内容	正常な人間の身体のはたらき、機能を学ぶ。 生理学のなかでも第 2 章～第 9 章の内容(循環・呼吸など)について学ぶ。
到達目標	正常な人間の身体のはたらき、機能について説明ができる。 はり師きゅう師の国家試験に対応できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	解剖学と関連させながら復習する。
使用教材	教科書『生理学』（東洋療法学校協会編） 配布プリント
留意点 考 考	副教材として、生理学①の範囲の配布プリントを持参して受講することが望ましい。

成績評価	各章ごとに小テストを実施。小テスト 30 点満点に換算し、定期テスト 70 点満点に加算し評価する。
------	--

1 学期 授業計画【内容・目標】		
1	循環 1	循環【血液の組成と働き】 循環の基本的な血液の働きについて説明ができる。
2	循環 2	循環【血液の組成と働き】 赤血球・白血球・血小板・血漿の成分と機能について説明ができる。
3	循環 3	循環【止血・血液型】 一次止血・二次止血について説明ができる。血液型について説明ができる。
4	循環 4	循環【心臓血管系】 大循環と小循環の流れが説明できる。心臓の構造と働きについて説明ができる。
5	循環 5	循環【刺激伝導系・心機能の調節】 刺激伝導系の流れが説明できる。心周期と心音について説明ができる。
6	循環 6	循環【血液循環】 血管の構造と働きについて説明ができる。
7	循環 7	循環【循環調節】 血液循環の調節の仕組みについて説明ができる。
8	循環 8	循環【リンパ系】 リンパの機能、生成と組成、リンパの輸送について説明ができる。
9	呼吸 1	呼吸【呼吸器・換気とガス交換】 外呼吸と内呼吸について説明ができる。肺気量について説明ができる。
10	呼吸 2	呼吸【呼吸運動と調節】 吸息と呼息について説明ができる。呼吸の反射性調節について説明ができる。
11	試験	1 学期試験
12	1 学期まとめ	試験で間違えたところの解説ができる。

2 学期 授業計画【内容・目標】		
1	消化と吸収 1	消化と吸収【構造と機能】 消化器系の機能について説明ができる。
2	消化と吸収 2	消化と吸収【構造と機能】 消化酵素の種類と働きについて説明ができる。
3	消化と吸収 3	消化と吸収【消化管の運動】 咀嚼・嚥下(第1相～第3相)まで説明ができる。胃・小腸・大腸の運動の説明ができる。
4	消化と吸収 4	消化と吸収【消化液と吸収】 消化液とその働き、消化管ホルモンについて説明ができる。
5	消化と吸収 5	消化と吸収【消化液と吸収】 各栄養素の吸収について説明ができる。
6	消化と吸収 6	消化と吸収【肝臓の働き・摂食の調節】 肝臓、物質代謝について説明ができる。摂食の調節について説明できる。
7	代謝 1	代謝【栄養素の働き】 栄養素の働きと、エネルギーの代謝について説明ができる。
8	代謝 2	代謝【各栄養素の働きと代謝】 各栄養素の働きと代謝の仕組みについて説明ができる。
9	体温 1	体温【体温調節】 体温の変動について説明ができる。熱産生と熱放散について説明ができる。
10	体温 2	体温【発汗と調節】 発汗調節の仕組みについて説明ができる。
11	試験	2 学期試験
12	2 学期まとめ	試験で間違えたところの解説ができる。

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	排泄 1	排泄【腎臓の働き】 腎臓の働きと、腎循環について説明ができる。
2	排泄 2	排泄【尿生成】 尿の生成の流れについて説明ができる。
3	排泄 3	排泄【腎臓と体液の調節】 体液のpH、浸透圧調節、体液量の調節について説明ができる。
4	排泄 4	排泄【蓄尿と排尿】 膀胱と尿道の神経支配について説明ができる。
5	内分泌 1	内分泌【ホルモンの特徴】 ホルモンの特徴と作用機序について説明ができる。
6	内分泌 2	内分泌【ホルモンの種類とその働き】 視床下部と下垂体について説明ができる。
7	内分泌 3	内分泌【ホルモンの種類とその働き】 視床下部・下垂体・甲状腺・副甲状腺のホルモンについて説明ができる。
8	内分泌 4	内分泌【ホルモンの特徴】 膵臓・副腎・精巣・卵巣のホルモンについて説明ができる。
9	生殖・成長と老化 1	生殖・成長と老化【生殖】 男性と女性の生殖器について説明ができる。性周期について説明ができる。
10	生殖・成長と老化 2	生殖・成長と老化【成長と老化】 身体各部位の成長と細胞の老化について説明ができる。
11	試験	3 学期試験
12	3 学期まとめ	試験で間違えたところの解説ができる。

科 目

【英】	医療概論 【Outline of Medicine】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	24	単 位	1
学 年	1 年生	学 期	3 学期	曜 日	金曜	時 限	2 限

担当教員	太田 育夫	実務者経験	2000 年～2002 年 近畿大学医学部付属病院にて助手として従事 2002 年～2003 年 大阪府立中河内救急にてレジデントとして従事 2003 年～2005 年 東大阪市立総合病院にて医員として従事 2005 年～2017 年 近畿大学医学部付属病院にて講師として従事 2017 年～ 社会医療法人三和会永山病院にて救急部長として従事
------	-------	-------	---

学習内容	医学と医療の歴史・現代医学の現状・医の倫理について学ぶ。
到達目標	医学と医療の歴史・現代医学の現状・医の倫理について説明できる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	東洋療法学校協会編 医療概論 配布資料
留意点 備考	

成績評価	本試験 100%
------	----------

1 学期 授業計画【内容・目標】		
1	医学史	教科書及びプリント資料を使用 医学の歴史の概要を学ぶ
2	医学史	教科書及びプリント資料を使用 医学の歴史の概要を学ぶ
3	医療とは①	医療の歴史 東洋医学と西洋医学
4	医療とは②	医療制度
5	医療とは③	倫理
6	日本の医療	日本の医療の現状〔医療保健制度を中心として〕
7	医療倫理①	医療者の倫理について
8	医療倫理②	医療者の倫理について
9	医療倫理③	医療倫理についてのディスカッション
10	まとめ	今学期の復習
11	試験	
12	予備日	

科 目

【英】	衛生学・公衆衛生学① 【Hygiene and Public Health】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	24	単 位	1
学 年	1 年生	学 期	3 学期	曜 日	月曜	時 限	2 限

担当教員	篠塚 知恵子	実務者経験	2015 年 7 月～2016 年 3 月 鍼灸院に所属 鍼灸院にて鍼灸施術をおこなう
------	--------	-------	--

学習内容	わが国では、近年衛生状態および栄養状態の著しい向上と予防医学・治療医学の進展によって、公衆衛生学上の諸条件は整備されてきている。しかし他方では、環境汚染の拡大や社会的不安の増大など多様な問題が浮かび上がってきている。このような時代に即して、健康な生活を進めるには何が必要か、生活環境を、物理的、化学的、生物学的社会因子として考察し、その中の障害因子と疾病との関わりについて学ぶ。各社会集団における健康をめぐる問題点、健康を守るための社会的なシステムを学ぶ。地域、学校、産業、老人、母子など各分野での衛生、保健上の諸問題について理解を深め、衛生行政の仕組み、衛生統計、分野別保健、健康増進、環境衛生について学ぶ。
到達目標	わが国の社会情勢について理解し、主に健康をめぐる諸問題、行政とシステムについて説明ができる水準に達すること。かつはり師・きゅう師国家試験に対応できるレベルに到達すること。

準備学習 時間外学習	講義後、講義で得た要点を『衛生学・公衆衛生学第2版』にて復習する。
使用教材	『衛生学・公衆衛生学第2版』鈴木庄亮、公益社団法人東洋療法学校協会 編集（医歯薬出版） 『ライフスタイルと健康』森本 襄 著（医学書院） 『国民衛生の動向』（厚生統計協会）
留意点 備考	講義中、まとめとしてははり師きゅう師国家試験で過去に出題された問題に触れる。

成績評価	本試験 100%
------	----------

1 学期 授業計画【内容・目標】		
1	第1章 公衆衛生の目的、衛生行政	[到達目標] 衛生・公衆衛生の目的について・衛生行政の仕組みと組織体系について理解する。保健所と市町村保健センターの役割を説明できる。
2	第2章 疾病の予防と健康管理	[到達目標] プライマリーヘルスケアの全体像と健康管理について理解する。予防医学(1次、2次、3次)の具体的内容が説明できる。
3	第3章 ライフスタイルと健康	[到達目標] 生活習慣に起因する危険因子について理解する。食中毒について各型・種類について理解する。健康観について、近年見直されている健康生成論について知る。
4	第4章 環境と健康	[到達目標] 気圏環境・大気汚染について理解する。水圏環境・上水および下水・水質汚濁について理解する。公害による健康被害について理解する。典型7公害について説明できる。4大公害の発生場所と原因・疾病の内容が説明できる。
5	第5章 産業保健 第6章 精神保健	[到達目標] 労働衛生にかかわる現状と課題について理解する。労働衛生3管理が説明できる。職業病と原因となる環境因子について説明できる。精神保健にかかわる現状と課題について理解する。主な精神疾患の特徴、精神保健の入院医療の定義について説明できる。
6	第7章 母子保健	[到達目標] 妊産婦と乳幼児の保健管理の課題について理解する。母子保健行政について理解する。我が国の母子保健の水準について説明できる。母子保健行政の具体例について説明できる。
7	第8章 成人・高齢者保健	[到達目標] 高齢者保健の現状と問題点について理解する。介護保険の対象者について説明できる。
8	第9章 感染症とその対策	[到達目標] 感染症の3要因、感染源・感染経路・感受性の宿主の種類を理解する。感染症新法に基づく分類1類～3類まで説明できる。
9	第10章 消毒法 第11章 疫学	[到達目標] 消毒法の種類・方法・対象物について説明できる。疫学の研究方法と研究デザインについて学ぶ。またその特徴について説明できる。
10	第12章 保健統計	[到達目標] 我が国の衛生統計に関するげんじょうと変化・公衆衛生の問題点について理解する。人口動態の5事象、平均余命とはなにか説明できる。
11	試験	
12		試験の解答および解説

科目

【英】	東洋医学概論① 【Outline of Oriental Medicine】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	48	単 位	3
学 年	1 年生	学 期	2.3 学期	曜 日	火曜	時 限	1 限

担当教員	一井 綾乃	実務者経験	1996 年 4 月～鍼灸院所属、 1996 年 7 月～2013 年 3 月大阪医大付属病院麻酔科ペインクリニック所属
------	-------	-------	---

学習内容	東洋医学の基礎を学ぶ。
到達目標	東洋医学に携わるものとして理解しておくべき陰陽五行論、蔵象、病証などを学習し、実際の臨床に応用できる基礎知識を得る。

準備学習 時間外学習	
使用教材	教科書『東洋医学概論』（東洋療法学校協会）、プリント
留意点 備考	毎回小テストを行う。

成績評価	各学期毎時間小テストを行う。その評価を 20～30%、期末試験を 70～80%で評価する。
------	---

2 学期 授業計画【内容・目標】		
1	陰陽学説	陰陽学説を学習し、理解できる。
2	五行学説	五行学説を学習し、理解できる。
3	五行色体表	五行色体表を学習し、理解できる。
4	生理事質 1	気、血、津液、精について学習し、理解できる。
5	生理事質 2	気、血、津液、精について学習し、理解できる。
6	蔵象 1	五臓六腑、奇恒の腑、十二官について学習し、理解できる。
7	蔵象 2	肝、心の蔵象を理解できる。
8	蔵象 3	心、脾の蔵象を理解できる。
9	蔵象 4	脾、肺の蔵象を理解できる。
10	蔵象 5	肺、腎、三焦の蔵象を理解できる。
11	試験	試験
12	振り返り	2 学期の内容を理解し、復習する。

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	病証 1	気、血、津液、精の病証について理解できる。
2	病証 2	八綱病証について理解できる。
3	病証 3	肝の病証について理解できる。
4	病証 4	心の病証について理解できる。
5	病証 5	脾の病証について理解できる。
6	病証 6	肺の病証について理解できる。
7	病証 7	腎の病証について理解できる。
8	病証 8	五臓の基本病証について理解できる。
9	病証 9	五臓の複合的な病証について理解できる。
10	まとめ	病証の伝変と波及について理解できる。
11	試験	試験
12	振り返り	3 学期の内容を理解し、復習する。

科目

【英】	経絡経穴概論① [Outline of the Meridians and Acupuncture Point]			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	72	単 位	4
学 年	1 年生	学 期	通 年	曜 日	木曜	時 限	1 限

担当教員	駒井 知佳子	実務者経験	2009 年 4 月～2014 年 6 月不妊治療専門病院にて受胎鍼担当。 2014 年 4 月桃の花鍼灸院開院。
------	--------	-------	--

準備学習 時間外学習	
使用教材	【教科書】新版 経絡経穴概論
留意点 備考	1. 講義と取穴実技を行う。 実技では取穴しやすい服装を用意すること。お互いに尊重しあって行うこと。 2. 出席は自分で管理すること。

成績評価	本試験 60% 平常点 40%。平常点は授業中に行う小テストで評価する。
------	--------------------------------------

授業計画【内容・目標】		
1	導入／陰陽の概念	陰陽の概念
2	五臓六腑・五行説の概念	五臓六腑、五行説と経絡経穴の概念
3	骨度法	骨度法
4	督脈①	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
5	督脈②	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
6	任脈	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
7	手太陰肺経	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
8	手陽明大腸経①	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
9	取穴テスト	範囲：督脈、任脈、手太陰肺経
10	手陽明大腸経②	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
11	試験	試験
12	テスト返却	解答と解説

授業計画【内容・目標】		
1	足陽明胃経胃経①	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
2	足陽明胃経胃経②	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
3	足陽明胃経胃経③	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
4	足太陰脾経①	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
5	取穴テスト	範囲：手陽明大腸経、足陽明胃経
6	足太陰脾経②	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
7	手少陰心経	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
8	手太陽小腸経①	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
9	手太陽小腸経②	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
10	取穴テスト	範囲：足太陰脾経、手少陰心経、手太陽小腸経
11	試験	試験
12	テスト返却	解答と解説

授業計画【内容・目標】		
1	足太陽膀胱経①	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
2	足太陽膀胱経②	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
3	足太陽膀胱経③	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
4	足少陰腎経①	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
5	足少陰腎経②	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
6	取穴テスト	範囲：足太陽膀胱経
7	手厥陰心包経	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
8	手少陽三焦経①	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
9	手少陽三焦経②	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
10	取穴テスト	範囲：足少陰腎経、手厥陰心包経、手少陽三焦経
11	試験	試験
12	テスト返却	解答と解説

科 目

【英】	はりきゅう理論① 【Scientific Foundation of Acupuncture】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	24	単 位	1
学 年	1 年生	学 期	1 学期	曜 日	土曜	時 限	1.2 限

担当教員	後藤 卓	実務者経験	2001 年 4 月～2003 年 3 月 鍼灸院に所属 鍼灸院にて鍼灸施術をおこなう
------	------	-------	--

学習内容	はり術、きゅう術の基礎を学ぶとともに様々な鍼灸の治療法を学ぶ
到達目標	☐ はりきゅう治療の適応・不適応および消毒の概念の習得 ☐ 基礎的なはりきゅう治療の知識の習得 ☐ 伝統的なはりきゅう治療法の知識の習得

準備学習 時間外学習	はりきゅう理論の教科書を事前に読んでおく
使用教材	【教科書】はりきゅう理論 【配布資料】あり
留意点 備考	なし

成績評価	各学期に 3 回小テストを実施。期末試験 70%＋小テスト 20%＋出席点 10%で評価する。
------	---

授業計画【内容・目標】		
1	第 1 章 概論 第 2 章 鍼の基礎知識	☒ 鍼灸の歴史と鍼灸に必要な古代思想 ☒ 毫鍼の各部の名称
2	第 2 章 鍼の基礎知識	☒ 鍼の太さと長さの基準 ☒ 鍼先の形状と特徴・鍼の材質と特徴・鍼管の材質と特徴
3	第 2 章 鍼の基礎知識	☒ 古代九鍼の種類と特徴
4	第 3 章 刺鍼の方式と術式	☒ 刺鍼の方式〔撚鍼法・打鍼法・管鍼法〕 ☒ 刺鍼の術式〔揉撚法・押手・刺手・切皮・刺入法・刺鍼の角度〕
5	第 3 章 刺鍼の方式と術式	☒ 刺鍼中の手技〔現行 17 手技〕
6	第 4 章 特殊鍼法	☒ 小児鍼・皮内鍼・円皮鍼・灸頭鍼
7	第 4 章 特殊鍼法	☒ 低周波鍼通電療法・耳鍼・レーザー鍼・頭鍼療法・イオン鍼・刺絡
8	第 5 章 灸の基礎知識	☒ 艾について〔原料・成分・品質〕・線香
9	第 6 章 灸術の種類	☒ 有痕灸〔透熱灸・焦灼灸・打膿灸〕の概要 ☒ 無痕灸〔知熱灸・温灸・隔物灸・艾を使用しない灸法〕のそれぞれの概要と種類
10	第 7 章 鍼灸の臨床応用	☒ はりきゅうの刺激量 ☒ 固体(患者)の感受性 ☒ 鍼灸療法の適応と禁忌
11	試験	試験
12	復習・まとめ	定期試験の解答・解説・まとめ

科 目

【英】	はりきゅう実技①～基礎はり実技～ 【Practice of Acupuncture and Moxibustion】			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	72	単 位	2
学 年	1 年生	学 期	通 年	曜 日	月曜	時 限	1 限

担当教員	北村 智	実務者経験	1970年6月～1987年3月 鍼灸院所属(鍼灸施術に従事) 1976年4月～2003年3月 専門学校、短大、大学に勤務 (基礎教科、鍼灸実技、臨床実習の授業担当) 2006年4月～ 東洋医療専門に非常勤勤務(はりきゅう基礎実習担当)
------	------	-------	--

学習内容	はり施術を適切に行うために不可欠な技術を修得するための基本操作・技術を習得する。
到達目標	鍼施術に不可欠なハリを刺す基礎技術がスムーズ、且つ正確に操作でき、施術 point (経穴) に安全に、且つ効果的な刺鍼(ハリを刺すこと)ができる。

準備学習 時間外学習	経穴学(取穴法)・解剖学(体表解剖学)・刺鍼基礎マニュアルの予習が必要。 刺鍼や施灸の基礎技術(片手挿管や紙上施灸)の時間外練習が必要。
使用教材	『刺鍼基礎実習ガイドライン』『刺鍼基礎マニュアル』『施灸基礎マニュアル』
留意点 備 考	講義内容を書き取る「メモ帳」白衣のポケットに常備して受講することが望ましい。

成績評価	実技試験 60% 基礎技術点 30% 出席点 10%
------	--------------------------------------

1 学期 授業計画【内容・目標】		
1	プロローグ	教材の整理状況確認。実習用具の作製。用具の名称。刺手と押手。授業の準備(段取りを含め)や後片付け。資料や用具の整理整頓、準備・段取り・後片付けの必要性和、用具の名称が理解できる。
2	片手挿管操作導入編Ⅰ	資料や用具の整理整頓と用具作製の完成度を確認。片手挿管操作の段階的練習方法の demonstration。練習。一定のリズムで連続的な操作を習得し、1分間に10回以上の基本操作ができることを目標とする。
3	片手挿管操作導入Ⅱ 柔撚法と押手	片手挿管操作導入編Ⅰの5分間タイムトライアル。刺鍼枕上での片手挿管操作の一連の流れ。前柔法、押手固定、鍼管の立て方、弾入・切皮、抜管・抜鍼、後揉法の重要性について習得する。
4	片手挿管操作Ⅰ	刺鍼枕上での片手挿管操作の練習。一定のリズムでの連続的な操作を習得する。取穴、前柔撚法、押手(三原則)、後柔撚法について理解する。
5	片手挿管操作Ⅱ 旋撚刺法	片手挿管操作の練習と5分間タイムトライアル。旋撚刺法の練習。刺鍼枕上での刺鍼操作と旋撚刺法を習得する。
6	片手挿管操作Ⅲ 施術の準備と後片付け	基礎技術操作の練習とタイムトライアル。手指の洗浄と消毒、用具の準備と後片付け。施術用具を清潔に、そして段取りのよい準備と衛生的な用具の片付けを習得する。
7	施術の準備Ⅰ 旋撚刺法Ⅰ	用具の準備。基礎技術操作の練習とタイムトライアル。枕上での刺鍼練習。用具の準備、片付けが正しくできる。枕上での旋撚刺鍼の習得。
8	施術の準備Ⅱ 旋撚刺法Ⅱ	用具の準備。基礎技術操作の練習とタイムトライアル。枕上での刺鍼練習。用具の準備、片付けが正しくできる。枕上での旋撚刺鍼の習得。
9	施術の準備Ⅲ 旋撚刺法Ⅲ	用具の準備。基礎技術操作の練習とタイムトライアル。枕上での刺鍼練習。用具の準備、片付けが正しくできる。枕上での旋撚刺鍼の習得。
10	術前の準備と 後片付けの試験	手指消毒法、ワゴンの清掃、用具の準備、後片付けの仕方の評価。
11	片手挿管操作と 旋撚操作の試験	枕上での片手挿管操作の完成度と旋撚操作の修得度の評価。
12	エピローグ	1学期の復習。試験の結果を踏まえて、個々の改善点を指導する。 2学期の授業内容と目標。技術修得の方法と目標の小論文(宿題)。

2 学期 授業計画【内容・目標】		
1	取穴と刺鍼の感覚①	鍼の材質や番手の相違による刺鍼感覚 材質や番手の相違による刺鍼の感覚が異なることを習得する。 刺鍼部位の変化を触知して正確に切皮・刺入する。正しく取穴して、的確に刺鍼する技術を習得する。
2	取穴と刺鍼の感覚②	刺鍼練習用具を用いて、正確に取穴、刺鍼する練習 刺鍼部位(経穴)の変化を察知して、正確に取穴、刺鍼する技術を習得する。
3	取穴と刺鍼の感覚③	刺鍼練習用具を用いて、正確に取穴、刺鍼する練習。 骨間や腿間、骨際へ正確に取穴、刺鍼する技術を習得する。
4	下腿部のc取穴と刺鍼	送込み刺法 鍼に旋撚を加えずに刺入する方法を習得する。 陽陵泉、足三里、陰陵泉、地機を取穴法 経絡の流注、取穴部位と取穴法を習得する。
5	施術部の消毒法と切皮	術前・術後の消毒法 術前・術後を通じて、施術部を衛生的に消毒することを習得する。 下腿部の脾経上での弾入・切皮 脛骨骨際を取穴して、無痛切皮を習得する。
6	経穴部位への刺鍼	旋撚刺入の練習 陰陵泉と地機に旋撚直刺15mm刺入を習得する。 送込み刺入の練習 陽陵泉と足三里に送込み直刺15mm刺入を習得する。
7	刺鍼転向法Ⅰ	刺鍼転向法の解説と demonstration 左右の地機穴に旋撚刺入直刺15mmの直刺置鍼後、上方向に刺鍼転向(45度斜刺)を習得する。
8	刺鍼転向法Ⅱ	旋撚と送込みで刺入した後、直刺でない場合、刺鍼転向で直刺に、あるいは直刺では斜刺に刺鍼転向する。 目的の方向に刺鍼できない場合、目的の方法に刺鍼転向ができる。
9	基礎実習の復習	手指の洗浄と消毒、用具の準備と後片付けの復習。正しい施術の準備ができる。 下腿部経穴の取穴法と刺鍼法の復習 取穴と刺鍼が正しくできる。
10	片手挿管操作の試験	片手挿管操作の完成度の評価。
11	消毒法と旋撚刺法の試験	施術前後の消毒法と地機穴での旋撚刺入操作との評価。
12	エピローグ	2学期の復習。試験の結果を踏まえて、個々の改善点を指導する。 3学期の授業内容と目標。技術修得の方法と目標の小論文(宿題)。

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	背腰部の取穴	背部俞穴の取穴基準線と背腰部の施術の注意点について。 取穴基準線を理解し、基準線に一致する経穴が取穴できる。
2	背腰部での刺鍼	ヤコビー線を基準にしての取穴法と刺鍼の方法。腰陽関と命門穴を取穴でき、腎俞と大腸俞に刺鍼できる。
3	募穴について	募穴と刺鍼方法について。募穴と臓腑(経絡)、部位と体幹の陰陽の関係が理解できる。
4	前腕部の施術	前腕部の流注と取穴法、刺鍼方法。前腕部経穴の取穴と刺鍼ができる。
5	肩甲上部と肩関節周辺の施術	肩甲上部と肩関節周辺の取穴法と刺鍼法。肩甲上部と肩関節周辺の取穴が取穴でき、刺鍼ができる。
6	下腿部での刺鍼Ⅰ	下腿部経穴の臨床的取穴法について。 学問的取穴法と臨床的取穴法を理解し、経穴反応を捉えての刺鍼ができる。
7	下腿部での刺鍼Ⅱ	下腿部経穴での刺鍼を復習。下腿部での取穴、刺鍼が正しくできる。
8	下腿部での刺鍼Ⅲ	下腿部経穴での刺鍼を復習。下腿部での取穴、刺鍼が正しくできる。
9	下腿部での刺鍼Ⅳ	下腿部経穴での刺鍼を復習。下腿部での取穴、刺鍼が正しくできる。
10	旋撚刺入の試験	地機穴の取穴法と旋撚刺法技術の評価。
11	送込み刺入の試験	足三里穴の取穴法と送込み刺法技術の評価。
12	エピローグ	3学期の復習。試験の結果を踏まえて、個々の改善点を指導する。

科 目

【英】	はりきゅう実技②～基礎きゅう実技～ 【Practice of Acupuncture and Moxibustion】			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	72	単 位	2
学 年	1 年生	学 期	通 年	曜 日	1 学期：水曜 2, 3 学期：木曜	時 限	2 限

担当教員	駒井 知佳子	実務者経験	2009 年 4 月～2014 年 6 月不妊治療専門病院にて受胎鍼担当。 2014 年 4 月桃の花鍼灸院開院。
------	--------	-------	--

学習内容	身体に安全かつ有効な施灸ができるように、技術を学ぶ。
到達目標	1 学期：紙上施灸・板状施灸がおこなえる。 2 学期：安全に身体施灸をおこなえる。 3 学期：身体施灸の応用をおこなえる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	実技道具、【教科書】はりきゅう実技、図解施灸基礎実践マニュアル、
留意点 備考	服装など規定の準備をしておくこと。

成績評価	本試験 50% 平常点 50%
------	-----------------

授業計画【内容・目標】		
1	導入	
2	施灸	板状施灸①
3	施灸	板状施灸②
4	施灸	板状施灸③
5	施灸	板状施灸④、※レポート提出
6	施灸	紙上施灸①
7	施灸	紙上施灸②
8	施灸	紙上施灸③
9	施灸	身体施灸①
10	試験	試験
11	試験	試験
12	予備日	まとめ

授業計画【内容・目標】		
1	身体施灸 1	上肢、半米粒大作成
2	身体施灸 2	身体施灸・タオルの扱い方
3	身体施灸 3	下肢への施灸
4	身体施灸 4	透熱灸【失眠穴への施灸】
5	身体施灸 5	腹部触診・募穴への施灸
6	身体施灸 6	腹部触診・募穴への施灸
7	身体施灸 7	試験準備
8	身体施灸 8	背部触診・俞穴への施灸
9	身体施灸 9	試験準備
10	試験	試験
11	試験	試験
12	予備日	まとめ

授業計画【内容・目標】		
1	臨床に出るにあたって	臨床実習前施術実技試験対策 ※レポート提出
2	身体施灸 1	胃の六つ灸
3	身体施灸 2	胃の六つ灸
4	臨床に出るにあたって	臨床実習前施術実技試験対策 ※レポート提出
5	特殊灸法 1	澤田流太極療法
6	特殊灸法 2	澤田流太極療法
7	臨床に出るにあたって	臨床実習前施術実技試験対策
8	臨床に出るにあたって	臨床実習前施術実技試験対策 ※レポート提出
9	臨床に出るにあたって	試験準備
10	試験	試験
11	試験	試験
12	予備日	まとめ

科 目

【英】	はりきゅう実技③～臨床基礎実技～ 【Practice of Acupuncture and Moxibustion】			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	72	単 位	2
学 年	1 年生	学 期	通 年	曜 日	1,2 学期：水曜 3 学期：金曜	時 限	1 限

1,2 学期 担当教員	林 眞早	実務者経験	2013 年 2 月～ 治療院開業
3 学期 担当教員	翁 祖耀	実務者経験	1974 年～ おきな鍼灸治療院 開業

学習内容	片手挿管法と紙上施灸の習得。身体指標を確認し取穴した経穴に鍼・灸を行う。
到達目標	鍼灸師になるために必要な鍼・灸の基礎技術の習得。

準備学習 時間外学習	自主練習が必要。
使用教材	教科書『はりきゅう実技＜基礎編＞』『経絡経穴概論』（東洋療法学校協会） 配布プリント
留意点 考 考	実技では学生同士で身体に触れて取穴や施術を行います。取穴しやすい服装で。お互いを尊重し合って行うこと。

成績評価	実技試験 50%＋平常点 50%で評価する。
------	------------------------

1 学期 授業計画【内容・目標】		
1	導入	自己紹介、授業内容、評価方法
2	鍼灸臨床導入	鍼灸臨床にあたって施術室の管理、患者の体位、安全性、医療過誤について知る（はりきゅう実技（基礎）p4～9）
3	鍼灸臨床導入 基礎術式練習	鍼灸臨床にあたって施術室の管理、患者の体位、安全性、医療過誤について知る（はりきゅう実技（基礎）p4～9）、片手挿管操作の練習
4	体表観察 基礎術式練習	骨度法に基づく身体指標、各身体部位寸法、片手挿管操作の練習
5	体表観察 基礎術式練習	骨度法に基づく身体指標、各身体部位寸法、片手挿管操作の練習
6	体表観察 基礎術式練習	仙骨裂孔、ヤコビー線、棘突起、肩甲骨下角、肩甲棘内端、外後頭隆起など 督脈で用いる主に背部の骨指標の確認を行う 片手挿管操作の練習、枕上での旋撚刺入練習
7	体表観察 基礎術式練習	仙骨裂孔、ヤコビー線、棘突起、肩甲骨下角、肩甲棘内端、外後頭隆起など 督脈で用いる主に背部の骨指標の確認または骨度法に基づく寸法の取り方を 確認する 片手挿管操作の練習、枕上での旋撚刺入練習、紙上施灸練習
8	体表観察 基礎術式練習	恥骨結合、胸骨体下端、胸骨上窩など任脈で用いる主に腹部の骨指標の確認 または骨度法に基づく寸法の取り方を確認する 片手挿管操作の練習、枕上での旋撚刺入練習、紙上施灸練習
9	試験練習	試験の流れについて、注意点と評価方法および試験練習
10	試験	
11	試験	
12	追再試験	追再試験

2 学期 授業計画【内容・目標】		
1	体表観察 身体刺鍼 基礎術式練習	上肢の筋腱、動脈拍動部、神経、肩周囲、頸部周囲など肺経、大腸経で用いる主に上肢の骨指標の確認または骨度法に基づく寸法の取り方を確認し、実際に上肢の経穴部への身体刺入を行う 片手挿管操作の練習、紙上施灸練習
2	体表観察 身体刺鍼 基礎術式練習	上肢の筋腱、動脈拍動部、神経、肩周囲、頸部周囲など肺経、大腸経で用いる主に上肢の骨指標の確認または骨度法に基づく寸法の取り方を確認し、実際に上肢の経穴部への身体刺入を行う 片手挿管操作の練習、紙上施灸練習
3	特殊灸法 基礎術式練習	市販灸(せんねん灸など) 片手挿管操作の練習、紙上施灸練習
4	体表観察 身体刺鍼 基礎術式練習	下肢の筋腱、動脈拍動部、神経、腹部寸法、顔面部など脾経、胃経で用いる主に下肢と顔面部の骨指標の確認または骨度法に基づく寸法の取り方を確認し、実際に下肢の経穴部への身体刺入を行う 片手挿管操作の練習、紙上施灸練習
5	体表観察 身体刺鍼 基礎術式練習	下肢の筋腱、動脈拍動部、神経、腹部寸法、顔面部など脾経、胃経で用いる主に下肢と顔面部の骨指標の確認または骨度法に基づく寸法の取り方を確認し、実際に下肢の経穴部への身体刺入を行う 片手挿管操作の練習、紙上施灸練習
6	特殊灸法 基礎術式練習	棒灸・押し灸 片手挿管操作の練習、紙上施灸練習
7	体表観察 身体刺鍼 基礎術式練習	上肢の筋腱、動脈の走行、神経など心経、小腸経で用いる主に上肢の骨指標の確認または骨度法に基づく寸法の取り方を確認し、実際に上肢の経穴部への身体刺入を行う 片手挿管操作の練習、紙上施灸練習
8	特殊灸法 基礎術式練習	隔物灸(生姜灸、塩灸) 片手挿管操作の練習、紙上施灸練習
9	特殊灸法 基礎術式練習 試験練習	箱灸 片手挿管操作の練習、紙上施灸練習 試験の流れについて、注意点と評価方法および試験練習
10	試験	
11	試験	
12	追再試験	追再試験

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	導入	授業内容、評価方法の説明等
2	身体刺鍼 基礎術式練習	背部腧穴への刺鍼、施術における注意点(医療過誤が生じ易い経穴部)、経穴の触知 片手挿管操作の練習、紙上施灸練習
3	身体刺鍼 基礎術式練習	背部腧穴への刺鍼、施術における注意点(医療過誤が生じ易い経穴部)、経穴の触知 片手挿管操作の練習、紙上施灸練習
4	身体刺鍼 基礎術式練習	腹部への刺鍼、施術における注意点(医療過誤が生じ易い経穴部)、経穴の触知 片手挿管操作の練習、紙上施灸練習
5	身体刺鍼 基礎術式練習	頸肩背部への刺鍼、施術における注意点(医療過誤が生じ易い経穴部)、経穴の触知 片手挿管操作の練習、紙上施灸練習
6	身体刺鍼 基礎術式練習	頸肩背部への刺鍼、施術における注意点(医療過誤が生じ易い経穴部)、経穴の触知 片手挿管操作の練習、紙上施灸練習
7	特殊灸法 基礎術式練習	灸頭鍼 片手挿管操作の練習、紙上施灸練習
8	特殊灸法 基礎術式練習	灸頭鍼 片手挿管操作の練習、紙上施灸練習
9	試験練習 基礎術式練習	試験の流れについて、注意点と評価方法および試験練習 片手挿管操作の練習、紙上施灸練習
10	試験	
11	試験	
12	追再試験	追再試験

科目

【英】	解剖生理学 【Anatomy and Physiology】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	72	単 位	4
学 年	2 年生	学 期	通年	曜 日	1,2 学期：金 曜 3 学期：木曜	時 限	1 限

1 学期 担当教員	孫 杰	1 学期 実務者経験	1983 年～1992 年 中国北京の総合病院に勤務 鍼灸科配属。1995～2000 年 阪大医学研究科 神経化学分野で研究。2009 年～中国鍼灸整体院を開設 し、鍼灸臨床に携わる。
2 学期 担当教員	松本 栞	2 学期実務者 経験	2013 年 3 月～2014 年 9 月 鍼灸整骨院に所属 鍼灸治療を担当
3 学期 担当教員	杉本 公一郎	3 学期 実務者経験	2009 年～2015 年 医療法人恵登久会 越川病院にて リハビリテーション室 室長として勤務。 2016 年 すずもと鍼灸整骨院を開設。

学習内容	一年時に学んだ解剖学と生理学を紐付けすることで、改めて一つの学問として学ぶ。
到達目標	解剖学と生理学の両分野を統合した医学知識を体系的に説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	一年時の解剖学、生理学を復習しておく。
使用教材	配布プリント
留意点 備考	副教材として解剖学・生理学の教科書を持参し受講することが望ましい。

成績評価	期末試験による 100%評価
------	----------------

1 学期 授業計画【内容・目標】		
1	呼吸器系①	呼吸器 〔解剖生理〕 構造・機能について説明できる
2	呼吸器系②	呼吸器 〔解剖生理〕 構造・機能について説明できる
3	呼吸器系③	呼吸器 〔解剖生理〕 構造・機能について説明できる
4	消化器系①	消化器 〔解剖生理〕 構造・機能について説明できる
5	消化器系②	消化器 〔解剖生理〕 構造・機能について説明できる
6	消化器系③	消化器 〔解剖生理〕 構造・機能について説明できる
7	泌尿器系①	泌尿器 〔解剖生理〕 構造・機能について説明できる
8	泌尿器系②	泌尿器 〔解剖生理〕 構造・機能について説明できる
9	体温①	体温 〔解剖生理〕 構造・機能について説明できる
10	体温②	体温 〔解剖生理〕 構造・機能について説明できる
11	試験	
12	まとめ	

2 学期 授業計画【内容・目標】		
1	循環 1	【血液総論】血液の組成・造血 解剖生理学の基礎をふまえながら総合的に理解し説明することができる。
2	循環 2	【心臓血管系】心臓の解剖・心周期 解剖生理学の基礎をふまえながら総合的に理解し説明することができる。
3	循環 3	【血液循環】血管の分類・走行・静脈還流 解剖生理学の基礎をふまえながら循環の全体像を総合的に理解し説明することができる。
4	循環 4	【循環調節】心拍数・血圧・調節の仕組み 解剖生理学の基礎をふまえながら総合的に理解し説明することができる。
5	消化器 1	【消化器概論】消化器系とは何か、消化管壁の構造 消化器系の全体像を理解し、構造と機能を総合的に理解し、説明することができる。
6	消化器 2	【口腔・胃】構造と機能 それぞれの構造と機能の違いを理解し、説明することができる。
7	消化器 3	【小腸・大腸】構造と機能 それぞれの構造と機能の違いを理解し、説明することができる。
8	消化器 4	【脾臓・肝臓】構造と機能 それぞれの構造と機能の違いを理解し、説明することができる。
9	生殖器 1	【生殖概論・男性生殖器】構造と機能 構造と機能を理解し、説明することができる。
10	生殖器 2	【女性生殖器】構造と機能、性周期 構造と機能を理解し、性周期と合わせて説明することができる。
11	試験	
12	まとめ	

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	神経の機能と構造	神経の機能や構造、活動電位、興奮伝導や伝達について学び、それらを説明できるようになる。
2	中枢神経について①	大脳と間脳について学び、それらを説明できるようになる。
3	中枢神経について②	脳幹と脊髄について学び、それらを説明できるようになる。
4	末梢神経について①	脳神経について学び、それらを説明できるようになる。
5	末梢神経について②	脊髄神経について学び、それらを説明できるようになる。
6	自律神経について①	交感神経と副交感神経について学び、それらを説明できるようになる。
7	自律神経について②	自律神経の中枢と関連する反射を含めて学び、それらを説明できるようになる。
8	運動	運動の伝導路について学び、それらを説明できるようになる。
9	感覚	感覚の伝導路について学び、それらを説明できるようになる。
10	特殊感覚①	味覚、嗅覚、聴覚、平衡感覚について学び、それらを説明できるようになる。
11	試験	試験
12	特殊感覚②	視覚について学び、それらを説明できるようになる。

科 目

【英】	病理学概論 【Outline of Pathology】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	48	単 位	3
学 年	2 年生	学 期	1.2 学期	曜 日	1 学期：火曜 2 学期：月曜	時 限	2 限

担当教員	篠塚 知恵子	実務者経験	2015 年 7 月～2016 年 3 月 鍼灸院に所属 鍼灸院にて鍼灸施術をおこなう
------	--------	-------	--

学習内容	「あ、は、き法」により定められた教科ガイドラインに基づく病理学概論は、病理学総論に相当する。病理学は解剖学・生理学・生化学をはじめとする人体の正常状態を扱う基礎医学と具体的な疾患の診断・治療に携わる臨床医学を橋渡す位置にある学問であり、疾病によっておこる様々な変化を通じ、病気の発症機序（疾病の原因、経過）と転機について探究する学問である。肉眼的・顕微鏡的形態変化の基盤に、疾病を理解し、その発症メカニズムを学習する。また、講義のなかで演習問題も行なう
到達目標	各種疾病の発症機序を説明できる水準に到達すること。かつはり師・きゅう師国家試験に対応できるレベルに到達すること。

準備学習 時間外学習	講義後、講義で得た要点を『病理学概論第2版』にて復習する。
使用教材	『病理学概論第2版』滝澤登一郎 編集 公益社団法人東洋療法学校協会(医歯薬出版) 『標準病理学第6版』北川晶伸 (医学書院) 『系統看護学講座 専門基礎分野 病理学第5版』大橋健一(医学書院)
留意点 考 考	講義中、まとめとしてははり師きゅう師国家試験で過去に出題された問題に触れる。

成績評価	期末試験 100%で評価する。
------	-----------------

2 学期 授業計画【内容・目標】		
1	第1章 病理学とは	[到達目標] 病理学における、基礎医学的、臨床医学的役割を理解する。疾病の意義と分類について理解する。
2	第2章 疾病の一般	[到達目標] 疾病の定義と分類について説明できる。
3	第3章 病因(1)	[到達目標] 病因(内因と外因)について理解する。
4	第3章 病因(2)	[到達目標] 病因(内因と外因)について理解する。
5	第4章 循環障害(1)	[到達目標] 充血・うっ血・虚血・貧血・出血などの定義・原因・分類について理解する。
6	第4章 循環障害(2)	[到達目標] ショックの定義・分類・症状について理解する。
7	第4章 循環障害(3)	[到達目標] 血栓・血栓症、塞栓・塞栓症・梗塞・浮腫についてそれぞれ定義・原因・結果について理解する。
8	第5章 代謝障害(1)	[到達目標] 退行性・進行性病変について、萎縮・変性・壊死のそれぞれの定義・分類について説明できる。アポトーシスの定義について説明できる。死の定義・判定、死後の変化について知る。過形成および肥大についてそれぞれ定義と分類を理解し説明できる。
9	第5章 代謝障害(2)	[到達目標] 退行性・進行性病変について、萎縮・変性・壊死のそれぞれの定義・分類について説明できる。アポトーシスの定義について説明できる。死の定義・判定、死後の変化について知る。過形成および肥大についてそれぞれ定義と分類を理解し説明できる。
10	第5章 代謝障害(3)	[到達目標] 退行性・進行性病変について、萎縮・変性・壊死のそれぞれの定義・分類について説明できる。アポトーシスの定義について説明できる。死の定義・判定、死後の変化について知る。過形成および肥大についてそれぞれ定義と分類を理解し説明できる。
11	試験	試験
12	試験解説	試験の解答および解説

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	第 6 章 代謝障害Ⅱ(1)	[到達目標] 脂質代謝障害・蛋白質代謝障害について具体的に動脈硬化症・高脂血症などの機序について学ぶ。痛風・アミロイドーシスなどについてその機序について学ぶ。
2	第 6 章 代謝障害Ⅱ(2)	[到達目標] 脂質代謝障害・蛋白質代謝障害について具体的に動脈硬化症・高脂血症などの機序について学ぶ。痛風・アミロイドーシスなどについてその機序について学ぶ。糖質代謝障害(糖尿病など)・色素代謝障害(黄疸)・無機質代謝障害(結石症)の機序について理解する。
3	第 6 章 代謝障害Ⅱ(3)	[到達目標] 糖質代謝障害(糖尿病など)・色素代謝障害(黄疸)・無機質代謝障害(結石症)の機序について理解する。
4	第 7 章 炎症(1)	[到達目標] 炎症の 5 徴・炎症の経過・再生・創傷治癒・炎症の各型について説明できる。
5	第 7 章 炎症(1)	[到達目標] 炎症の 5 徴・炎症の経過・再生・創傷治癒・炎症の各型について説明できる。
6	第 9 章 免疫・アレルギー(1)	[到達目標] 免疫の基礎的仕組みについて理解する。免疫担当細胞・液性免疫・細胞性免疫・免疫不全についてその機序、代表的な疾患について説明できる。
7	第 9 章 免疫・アレルギー(2)	[到達目標] 免疫の基礎的仕組みについて理解する。免疫担当細胞・液性免疫・細胞性免疫・免疫不全についてその機序、代表的な疾患について説明できる。アレルギー(Ⅰ～Ⅳ型)・自己免疫疾患・移植免疫についてその機序、代表的な疾患について説明できる。
8	第 8 章 腫瘍(1)	[到達目標] 腫瘍の定義・腫瘍の分類(良性と悪性・上皮性と非上皮性)を説明できる。悪性腫瘍と良性腫瘍の違いについて(異型・構造・分化度・悪性度・発育形成・発育速度など)説明できる。悪性腫瘍の転移と進行度について理解する。
9	第 8 章 腫瘍(2)	[到達目標] 発癌理論を学ぶ。腫瘍の発生原因(内因・外因)について説明できる。腫瘍の診断と治療について概略を学ぶ。
10	第 10 章 先天性異常	[到達目標] 先天性異常の原因と分類について説明できる。奇形の原因・分類について説明できる。遺伝性疾患(単因子遺伝疾患・多因子遺伝疾患)について説明できる。染色体異常による疾患(常染色体異常・性染色体異常)について代表的な例を説明できる。
11	試験	試験
12	試験解説	試験の解答および解説

科目

【英】	臨床医学総論① 【Clinical Medicine in General】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	72	単位	4
学 年	2 年生	学 期	通年	曜 日	水曜	時 限	1 学期：2 限 1,3 学期：2 限

担当教員	真田 浩二	実務者経験	2000 年 4 月～2002 年 3 月 鍼灸院に所属 往診および鍼灸院にて鍼灸施術をおこなう
------	-------	-------	---

学習内容	現代医学的な観点からの診察学〔検査法・主な症状の診察法など〕・治療学・臨床心理を学ぶ。 鍼灸師に必要な項目のみならず、幅広く現代医学的鑑別診断による病態把握を学ぶ。
到達目標	症候から現代医学的な観点で鑑別診断ができる。臨床の場において実際に活用できるレベル、 かつはり師・きゅう師国家試験に対応できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の予習が必要。臨床医学各論との関連を復習する。
使用教材	配布プリント「臨床医学総論」
留意点 備考	副教材として解剖学・生理学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	各学期に約 5 回小テスト実施。期末試験 80%＋小テスト 20%で評価。再試験は試験 100%、小テストは含まない。
------	---

1 学期 授業計画【内容・目標】		
1	導入	基礎医学と臨床医学。臨床医学総論と各論。授業の進め方と試験・評価。
2	診断学概要	診察の意義 診療のプロセス 診察の概要 診察の方法 身体診察【身体診察の進め方 身体診察の方法 生命徴候】
3	診断学 全身状態の診察 1	顔貌の診察と関連疾患【先端巨大症・下垂体腺腫・副腎皮質の疾患 1】
4	診断学 3	顔貌の診察と関連疾患【副腎皮質の疾患 2】
5	診断学 4	顔貌の診察と関連疾患【甲状腺の疾患】
6	診断学 5	顔貌の診察と関連疾患【破傷風・パーキンソン病 1】
7	診断学 6	顔貌の診察と関連疾患【パーキンソン病 2】 精神状態の診察と関連疾患【意識状態・感情・協調性・見当識・知能】
8	診断学 7	精神状態の診察と関連疾患【アルツハイマー型認知症・脳血管性認知症・レビー小体型認知症】
9	診断学 8	精神状態の診察と関連疾患【ピック病・進行性核上性麻痺・球麻痺・梅毒 1】
10	診断学 9	精神状態の診察と関連疾患【梅毒 2】
11	試験	1 学期試験
12	試験振り返り 診断学 10	精神状態の診察と関連疾患【クロイツフェルトヤコブ病】 体格の診察と関連疾患 巨人症【マルファン症候群・大動脈瘤】

2 学期 授業計画【内容・目標】		
1	診断学 11	体格の診察と関連疾患 巨人症【大動脈解離・ホルネル症候群・反回神経麻痺】
2	診断学 12	体格の診察と関連疾患 巨人症【心臓弁膜症】
3	診断学 13	体格の診察と関連疾患 巨人症【心不全・リウマチ熱・心房細動】
4	診断学 14	体格の診察と関連疾患 巨人症【大動脈解離・ホルネル症候群・反回神経麻痺】
5	診断学 15	体格の診察と関連疾患 巨人症【心臓弁膜症】
6	診断学 16	体格の診察と関連疾患 巨人症【心不全・リウマチ熱・心房細動】
7	診断学 17	体格の診察と関連疾患 巨人症【動脈硬化症・大動脈炎症候群】 体格の診察と関連疾患 小人症【下垂体機能低下症】
8	診断学 18	体格の診察と関連疾患 小人症【ターナー症候群・軟骨無形成症・くる病/骨軟化症】
9	診断学 19	栄養状態の診察と関連疾患 肥満【インスリノーマ・クラインフェルター症候群】 栄養状態の診察と関連疾患 るいそう・やせ
10	診断学 20	栄養状態の診察と関連疾患 るいそう・やせ【甲状腺ホルモン過剰・アジソン病】
11	試験	2 学期試験
12	試験振り返り 診断学 21	栄養状態の診察と関連疾患 るいそう・やせ【褐色細胞腫】

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	診断学 22	体位/姿勢の診察と関連疾患【気管支喘息】
2	診断学 23	体位/姿勢の診察と関連疾患【髄膜炎・頭蓋内圧亢進】
3	診断学 24	体位/姿勢の診察と関連疾患【髄膜刺激症状】 歩行の診察と関連疾患【パージャール病・閉塞性動脈硬化症】
4	診断学 25	歩行の診察と関連疾患【下垂足/尖足・筋ジストロフィー】
5	診断学 26	歩行の診察と関連疾患【多発性筋炎/皮膚筋炎・膠原病】
6	診断学 27	歩行の診察と関連疾患【重症筋無力症・发育性股関節形成不全】
7	診断学 28	歩行の診察と関連疾患【レイノー現象・運動失調 1】
8	診断学 29	歩行の診察と関連疾患【運動失調 2・脊髄小脳変性症・多発性硬化症】
9	診断学 30	言語の診察と関連疾患【失声症・構音障害・失語症】
10	診断学 31	皮膚・粘膜・皮下組織の診察と関連疾患【貧血・ショック】
11	試験	3 学期試験
12	試験振り返り 診断学 32	皮膚・粘膜・皮下組織の診察と関連疾患【敗血症・チアノーゼ・ファロー四徴症】

科 目

【英】	臨床医学各論① 【Clinical Medicine Part】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	72	単 位	4
学 年	2 年生	学 期	通 年	曜 日	1 学期：月曜 2 学期：水曜 3 学期：土曜	時 限	1 学期：2 限 2 学期：2 限 3 学期：1,2 限

1 学期 担当教員	山口 隆平	1 学期 実務者経験	野々村整形外科クリニック（平成 16 年 4 月～平成 17 年 10 月）
2 学期 担当教員	藤田 和樹	2 学期 実務者経験	2012 年～2015 年 整骨院勤務 治療補助など担当 2009 年～高校ラグビー部トレーナー帯同 AT 業務全般担当
3 学期 担当教員	伊佐治 景悠	3 学期 実務者経験	2018 年 S R 鍼灸烏丸を開院、JISRAM（日本生殖鍼灸標準化機関）監事 2019 年株式会社 春 不妊治療アドバイザー

学習内容	現代医学的な観点からの臨床医学を学ぶ。各疾患の概念・疫学・病因・病態生理・症状・診断・治療などをそれぞれ理解する。
到達目標	臨床の場において、実際に活用できるレベルかつ国家試験に対応できるレベルまでを学ぶことを目標とする。

準備学習 時間外学習	
使用教材	【教科書】臨床医学各論、配布資料
留意点 備 考	

成績評価	定期試験 70%＋小テスト 30%
------	-------------------

1 学期 授業計画【内容・目標】		
1	感染症	総論 細菌感染症〔猩紅熱・百日咳・ジフテリア・破傷風〕
2	感染症	細菌感染症〔ブドウ球菌感染症・細菌性食中毒・細菌性赤痢・コレラ・腸チフス・パラチフス〕
3	感染症	ウイルス感染症〔インフルエンザ・麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎〕
4	感染症	性感染症〔梅毒・淋病・性器クラミジア感染症・エイズ〕
5	肝胆膵疾患	肝疾患〔急性肝炎・慢性肝炎〕
6	肝胆膵疾患	肝疾患〔肝硬変・肝がん〕
7	肝胆膵疾患	胆道疾患〔胆石・胆嚢癌・黄疸〕
8	肝胆膵疾患	膵疾患〔急性膵炎・慢性膵炎・膵癌〕
9	その他の領域①	婦人科疾患〔子宮頸癌・子宮体癌・乳癌・更年期障害・月経異常〕
10	その他の領域②	眼科疾患〔結膜炎・角膜炎・麦粒腫・白内障・緑内障・眼精疲労〕
11	試験	試験
12	試験解説・まとめ	試験解説とまとめ

2 学期 授業計画【内容・目標】		
1	整形外科疾患①	総論〔保存的治療と手術的治療・画像診断〕 関節疾患〔関節炎・関節の可動域の異常・五十肩〕
2	整形外科疾患②	関節疾患〔変形性関節症〕筋・腱疾患〔筋肉炎・筋膜炎・腱鞘炎〕
3	整形外科疾患③	骨代謝性疾患・骨腫瘍 〔骨粗しょう症・くる病・骨軟化症・骨腫瘍〕 形態異常〔先天性股関節脱臼・斜頸・側彎症・外反母趾・内反足〕
4	整形外科疾患④	脊椎疾患〔椎間板ヘルニア・後縦靱帯骨化症・脊椎分離症・脊椎すべり症〕
5	整形外科疾患⑤	脊椎疾患〔頸部変形性脊椎症・腰部変形性脊椎症・ 頸部脊柱管狭窄症・腰部脊柱管狭窄症〕
6	整形外科疾患⑥	脊椎疾患〔腰痛症・頸椎捻挫・むちうち損傷〕 脊髄損傷〔脊髄損傷〕
7	整形外科疾患⑦	外傷〔骨折・脱臼〕
8	整形外科疾患⑧	外傷〔捻挫・スポーツ外傷障害〕
9	整形外科疾患⑨	その他の整形外科疾患〔胸郭出口症候群・頸腕症候群 頸肩腕症候群・ガングリオン・手根管症候群〕
10	整形外科疾患⑩	末梢神経性疾患〔圧迫性および絞扼性ニューロパシー〕
11	試験	試験
12	試験解説・まとめ	試験解説とまとめ

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	腎・尿器疾患	腎臓と副腎の解剖生理
2	腎・尿器疾患	原発性糸球体腎炎〔糸球体腎炎・腎不全〕、性感染症
3	腎・尿器疾患	腫瘍性疾患〔腎腫瘍・膀胱がん〕、前立腺疾患〔前立腺肥大・前立腺がん〕、結石症 〔腎・尿路結石〕
4	腎・尿器疾患	男性不妊症〔乏精子症・精子無力症〕、男性性機能〔勃起障害〕
5	神経疾患	脳血管疾患〔脳梗塞・脳出血〕、認知症〔アルツハイマー・脳血管型認知症〕、感染性 疾患
6	神経疾患	脳・脊髄腫瘍〔脳腫瘍・脊髄腫瘍〕、基底核変性疾患〔パーキンソン病〕
7	神経疾患	筋疾患〔重症筋無力症・筋ジストロフィー〕、運動ニューロン疾患〔筋萎縮性側索硬化 症〕
8	神経疾患	末梢神経性疾患〔ギランバレー症候群・上肢と下肢の神経障害・末梢性顔面神経麻痺〕
9	神経疾患	神経痛〔三叉神経痛・肋間神経痛・坐骨神経痛・後頭神経痛〕、機能性疾患〔頭痛〕
10	復習	腎・尿器疾患と神経疾患の復習
11	試験	試験
12	試験解説・まとめ	試験解説とまとめ

科目

【英】	臨床医学各論② 【Clinical Medicine Part】			必修/選択	必須	授業形式	講義
				総時間数	24	単 位	1
学 年	2 年生	学 期	3 学期	曜 日	金曜	時 限	2 限

担当教員	藤原 法香	実務者経験	2017 年 4 月～2018 年 10 月 鍼灸整骨院に所属 鍼灸整骨院にて鍼灸施術をおこなう。
------	-------	-------	--

学習内容	各内分泌腺において起こる病気について学ぶ。 各代謝・栄養疾患について学ぶ。
到達目標	内分泌系、代謝・栄養疾患の説明ができる。 はり師きゅう師の国家試験に対応できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	生理学と関連させながら復習する。
使用教材	教科書『臨床医学各論』（東洋療法学校協会編） 配布プリント
留意点 備考	副教材として、生理学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	各疾患について小テストを実施。小テスト 30 点満点に換算し、定期テスト 70 点満点に加算し評価する。
------	--

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	内分泌 1	内分泌器官のフィードバック機構について説明ができる。
2	内分泌 2	内分泌【下垂体疾患】 クッシング病、先端巨大症・巨人症について説明ができる。
3	内分泌 3	内分泌【下垂体疾患】 下垂体性低身長症、尿崩症について説明ができる。
4	内分泌 4	内分泌【甲状腺疾患】 甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、慢性甲状腺炎について説明できる。
5	内分泌 5	内分泌【副腎疾患】 副腎皮質機能亢進症、原発性アルドステロン症について説明ができる。
6	内分泌 6	内分泌【副腎疾患】 副腎皮質機能低下症、褐色細胞腫について説明ができる。
7	代謝 1	代謝【糖代謝異常】 糖尿病について説明ができる。
8	代謝 2	代謝【脂質代謝異常】 高脂血症・脂質異常症、肥満症、るいそうについて説明ができる。
9	代謝 3	代謝【尿酸代謝異常】 高尿酸血症、痛風について説明ができる。
10	代謝 4	代謝【その他】 ビタミン欠乏症・過剰症、骨軟化症について説明ができる。
11	試験	試験
12	まとめ	試験で間違えたところの解説ができる。

科 目

【英】	リハビリテーション医学① 【Rehabilitation Medicine】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	24	単 位	1
学 年	2 年生	学 期	3 学期	曜 日	木曜	時 限	2 限

担当教員	中塚 和樹	実務者経験	2002 年 4 月～ 大和中央病院に所属。 外来・入院の急性期～回復期までのリハビリテーションを行う。
------	-------	-------	---

学習内容	一般病院でのリハビリテーション対象疾患となる病態の理解と基本的な運動療法知識の習得。
到達目標	国家試験対策も含めて、リハビリテーションの基礎知識を習得する。

準備学習 時間外学習	運動学・解剖学・各種病態の基礎知識の理解を進める。
使用教材	リハビリテーション医学（東洋療法学校協会） 配布プリント
留意点 備考	授業のはじめと最後に同一の小テストを行い、授業内での予習復習を行うこと。

成績評価	期末試験 100%
------	-----------

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	リハビリテーション 総説	障害の評価について
2	運動学の基礎	主に力学と姿勢制御について
3	正常歩行と姿勢	主に正常歩行の基礎知識について
4	異常歩行	各歩行障害の特徴について
5	脳卒中のリハ 1	脳卒中の種類と運動麻痺について
6	脳卒中のリハ 2	高次脳機能障害について
7	脳卒中のリハ 3	脳卒中の運動療法概論
8	脳卒中のリハ 4	脳卒中の運動療法実技
9	切断のリハ 1	病態生理と運動療法
10	切断のリハ 2 まと め	装具について 試験前まとめ
11	試験	試験
12	試験解説	試験解説

科 目

【英】	衛生学・公衆衛生学② 【Hygiene・Public Health】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	24	単 位	1
学 年	2 年生	学 期	2 学期	曜 日	木曜	時 限	2 限

担当教員	篠塚 知恵子	実務者経験	2015 年 7 月～2016 年 3 月 鍼灸院に所属 鍼灸院にて鍼灸施術をおこなう
------	--------	-------	--

学習内容	わが国では、近年衛生状態および栄養状態の著しい向上と予防医学・治療医学の進展によって、公衆衛生学上の諸条件は整備されてきている。しかし他方では、環境汚染の拡大や社会的不安の増大など多様な問題が浮かび上がってきている。このような時代に即して、健康な生活を進めるには何が必要か、生活環境を、物理的、化学的、生物学的社会因子として考察し、その中の障害因子と疾病との関わりについて学ぶ。各社会集団における健康をめぐる問題点、健康を守るための社会的なシステムを学ぶ。地域、学校、産業、老人、母子など各分野での衛生、保健上の諸問題について理解を深め、衛生行政の仕組み、衛生統計、分野別保健、健康増進、環境衛生について学ぶ。
到達目標	わが国の社会情勢および保健統計についてその現状を理解し、また医療従事者として必要な衛生環境を理解し実践できる水準に達すること。かつはり師・きゅう師国家試験に対応できるレベルに到達すること。

準備学習 時間外学習	講義後、講義で得た要点を『衛生学・公衆衛生学第2版』にて復習する。
使用教材	『衛生学・公衆衛生学第2版』鈴木庄亮、公益社団法人東洋療法学校協会 編集（医歯薬出版） 『ライフスタイルと健康』森本曩 著（医学書院） 『国民衛生の動向』（厚生統計協会）
留意点 備 考	講義中、まとめとしてははり師きゅう師国家試験で過去に出題された問題に触れる。

成績評価	期末試験 100%で評価する。
------	-----------------

授業計画【内容・目標】		
1	第8章 成人・高齢者保健	【到達目標】高齢者保健の現状と問題点について理解する。 介護保険の対象者について説明できる。
2	第9章 感染症とその対策	【到達目標】感染症の3要因、感染源・感染経路・感受性の宿主の種類を理解する。 感染症新法に基づく分類1類～3類まで説明できる。
3	第9章 感染症とその対策	【到達目標】感染症の3要因、感染源・感染経路・感受性の宿主の種類を理解する。 感染症新法に基づく分類1類～3類まで説明できる。
4	第10章 消毒法	【到達目標】消毒法の種類・方法・対象物について説明できる。
5	第10章 消毒法	【到達目標】消毒法の種類・方法・対象物について説明できる。医療従事者として必要な衛生面で知識の構築をし、実践できる。
6	第11章 疫学	【到達目標】疫学の研究方法と研究デザインについて学ぶ。またその特徴について説明できる。
7	第11章 疫学	【到達目標】疫学の研究方法と研究デザインについて学ぶ。またその特徴について説明できる。 【グループワーク】実験疫学、分析疫学のうち提示された研究デザインに対して、リサーチクエスションの設定、簡便的に各デザインを組み立てる。
8	第11章 疫学	【到達目標】疫学の研究方法と研究デザインについて学ぶ。またその特徴について説明できる。 【グループワーク】各グループで発表を行い、提示されたデザインから逸脱していないか評価を行う。
9	第12章 保健統計	【到達目標】我が国の衛生統計に関するげんじょうと変化・公衆衛生の問題点について理解する。 人口動態の5事象、平均余命とはなにか説明できる。
10	第12章 保健統計	【到達目標】我が国の衛生統計に関するげんじょうと変化・公衆衛生の問題点について理解する。 人口動態の5事象、平均余命とはなにか説明できる。
11	試験	試験
12	試験解説	試験の解答および解説

科 目

【英】	東洋医学概論② 【Outline of Oriental Medicine】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	48	単 位	3
学 年	2 年生	学 期	1.2 学期	曜 日	月曜	時 限	1 限

担当教員	副田 恵子	実務者経験	1999 年 4 月～鍼灸院を開院 鍼灸院及び往診にて鍼灸施術をおこなう
------	-------	-------	---

学習内容	1 年生で学んだ東洋医学概論の復習を取り入れ基礎知識を固めながら、続き P150 第 2 章第 3 節～P311 第 5 章第 3 節までの応用を理解し経絡経穴の分野を絡めながら深める。
到達目標	東洋医学の理解を深め、楽しみながら臨床や日常生活にも生かせるようにする。 はり師・きゅう師国家試験に対応できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	重要ポイントの復習が必要。毎回の小テスト対策が重要。
使用教材	教科書「東洋医学概論」（東洋療法学校協会編） 配布プリント
留意点 備考	副教材として経絡経穴概論の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	毎授業に小テストを実施。期末試験 70%＋小テスト 30%で評価する。
------	-------------------------------------

授業計画【内容・目標】		
1	1 年時の復習	1 年時で学んだ生体物質、蔵象学説の理解の確認。 小テストで 80%の内容理解到達を目標とする。
2	経絡	経絡の概念・機能・構成・病理 小テストで 80%の内容理解到達を目標とする。
3	病因病機	外感・内傷・その他の病因 小テストで 80%の内容理解到達を目標とする。
4	病因病機	病機 小テストで 80%の内容理解到達を目標とする。
5	陰陽学説	陰陽の相互関係 小テストで 80%の内容理解到達を目標とする。
6	五行学説	五行の関係 小テストで 80%の内容理解到達を目標とする。
7	五行学説	五行学説の運用 小テストで 80%の内容理解到達を目標とする。
8	四診	望診 小テストで 80%の内容理解到達を目標とする。
9	四診	聞診 小テストで 80%の内容理解到達を目標とする。
10	四診	問診 小テストで 80%の内容理解到達を目標とする。
11	試験	試験
12	1 学期の復習	1 年～1 学期までの復習と前期試験の解説 80%の内容理解到達を目標とする。

授業計画【内容・目標】		
1	1 年時～1 学期の復習	1 年時～1 学期で学ん理解の確認。 小テストで 80% の内容理解到達を目標とする。
2	四診	その他の問診 身体症状など 小テストで 80% の内容理解到達を目標とする。
3	四診	疼痛 女性の月経など 小テストで 80% の内容理解到達を目標とする。
4	四診	切診 反応や腹診など 小テストで 80% の内容理解到達を目標とする。
5	四診	切経 脈診 四診合参 小テストで 80% の内容理解到達を目標とする。
6	弁証論治	八綱弁証 気血津液弁証 小テストで 80% の内容理解到達を目標とする。
7	弁証論治	臟腑弁証 小テストで 80% の内容理解到達を目標とする。
8	弁証論治	六経弁証 小テストで 80% の内容理解到達を目標とする。
9	弁証論治	治則 小テストで 80% の内容理解到達を目標とする。
10	弁証論治	治法 小テストで 80% の内容理解到達を目標とする。
11	試験	試験
12	2 学期の復習	1 年～2 学期までの復習と前期試験の解説 80% の内容理解到達を目標とする。

科目

【英】	経絡経穴概論② 【Outline of the Meridians and Acupuncture Point】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	24	単 位	1
学 年	2 年生	学 期	1 学期	曜 日	木曜	時 限	2 限

担当教員	駒井 知佳子	実務者経験	2009 年 4 月～2014 年 6 月不妊治療専門病院にて受胎鍼担当。 2014 年 4 月桃の花針灸院開院。
------	--------	-------	--

学習内容	経絡と経穴の特徴を学び、経穴の場所や意義を学ぶ。
到達目標	取穴部位の習得（正確に取穴ができる）および治療穴として選穴できるようになる。 はり師きゅう師国家試験の出題される問題を理解し正確な解答を選択できるようになる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	【教科書】新版 経絡経穴概論
留意点 考 考	1. 講義と取穴実技を行う。 実技では取穴しやすい服装を用意すること。お互いに尊重しあって行うこと。 2. 出席は自分で管理すること。

成績評価	本試験 60% 平常点 40%。平常点は授業中に行う小テストで評価する。
------	--------------------------------------

1 学期 授業計画【内容・目標】		
1	足少陽胆経胆経①	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
2	足少陽胆経②	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
3	足少陽胆経③	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
4	足厥陰肝経①	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
5	足厥陰肝経②	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
6	奇穴①	経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
7	奇穴②	経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
8	取穴テスト	範囲 足少陽胆経、足厥陰肝経
9	奇経	奇経八脈の流注の概要、取穴実技
10	経絡経穴学と現代医学	教科書 p232～
11	試験	試験
12	テスト返却	解答と解説

科目

【英】	はりきゅう理論② 【Scientific Foundation of Acupuncture】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	48	単 位	3
学 年	2 年生	学 期	2.3 学期	曜 日	2 学期：土曜 3 学期：月曜	時 限	2 学期：1,2 限 3 学期：2 限

担当教員	後藤 卓	実務者経験	2001 年 4 月～2003 年 3 月 鍼灸院に所属 鍼灸院にて鍼灸施術をおこなう
------	------	-------	--

学習内容	はり術、きゅう術のリスクとそれに対するリスク管理の方法を学ぶとともに、鍼灸治療の科学的な効果について学ぶ
到達目標	鍼灸治療の治療効果について現代医学的な実験やデータに基づく理論の習得。 鍼灸の治療効果に関連のある学説について学ぶ。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の予習が必要
使用教材	【教科書】はりきゅう理論 【配布資料】あり
留意点 備考	副教材として解剖学・生理学の教科書を持参して受講すること

成績評価	各学期に 3 回小テストを実施。期末試験 70%＋小テスト 20%＋出席点 10%で評価する。
------	---

授業計画【内容・目標】		
1	第 8 章 リスク管理	■ リスク管理の概要〔インフォームドコンセントなど〕 ■ 鍼療法の過誤〔気胸・折鍼・皮膚反応〕について
2	第 8 章 リスク管理	■ 鍼療法の過誤〔出血内出血・抜鍼困難・脳貧血・遺感覚〕
3	第 8 章 リスク管理	■ 灸療法の過誤〔灸痕の化膿・灸あたり〕について ■ 感染症対策の概要について ■ 消毒レベル〔滅菌・消毒・洗浄〕について
4	第 8 章 リスク管理	■ 手指消毒〔手指洗浄・手指消毒法〕について ■ 器具の消毒方法〔オートクレーブなど〕 ■ 器具の保管について
5	第 8 章 リスク管理	■ 鍼治療による感染について
6	第 8 章 リスク管理	■ リスク管理の概要〔インフォームドコンセントなど〕 ■ 鍼療法の過誤〔気胸・折鍼・皮膚反応〕について
7	鍼灸治効の基礎①	■ 痛みの種類 ■ 内因性発痛物質の種類 ■ 痛覚投射部位の概要
8	鍼灸治効の基礎②	■ 熱痛の発生と特徴 ■ 関連痛の概要
9	鍼灸治効の基礎③	■ 鍼灸刺激と反射〔伸張反射・逃避反射のメカニズム〕
10	復習・まとめ	定期試験前にこれまでの学習内容のまとめと復習
11	試験	試験
12	復習・まとめ	定期試験の解答・解説・まとめ

授業計画【内容・目標】		
1	鍼灸治効の基礎④	■ 鍼灸刺激と反射 〔自律神経反射・ヘッド帯・マッケンジー帯〕
2	鍼灸治効の基礎⑤	■ 鍼灸刺激と体性自律反射について ■ 軸索反射のメカニズム ■ 鍼鎮痛〔鍼麻酔〕
3	鍼灸治効の基礎⑤	■ 軸索反射のメカニズム ■ 鍼鎮痛〔鍼麻酔〕
4	鍼灸治効の基礎⑥	■ 鍼鎮痛〔内因性オピオイド・オピオイド拮抗物質・下行性痛覚抑制系〕
5	鍼灸療法の一般治効理論①	■ 鍼鎮痛〔ゲートコントロール説〕 ■ 鍼灸施術部位の反応 ■ 鍼灸施術の治療的作用について
6	鍼灸療法の一般治効理論②	■ 体性自律反射による鍼の効果 〔鍼刺激による筋血流に対する作用・内臓に対する作用〕 ■ ポリモーダル受容器の特徴
7	鍼灸療法の一般治効理論③	■ 灸療法と炎症 ■ 鍼灸治療による生体防御機構に及ぼす影響
8	関連学説①	■ サイバネティックスの学説 ■ 内部環境の恒常性 ■ ホメオスターシス、緊急反応
9	関連学説②	■ ストレス学説 ■ レイリー現象 ■ 圧発汗反射
10	復習・まとめ	定期試験前にこれまでの学習内容のまとめと復習
11	試験	試験
12	復習・まとめ	定期試験の解答・解説・まとめ

科 目

【英】	東洋医学臨床論① 【Clinical Oriental Medicine】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	76	単 位	5
学 年	2 年生	学 期	通年	曜 日	1 学期：木曜 2 学期：火曜 3 学期：火曜	時 限	1 学期：1 限 2,3 学期：2 限

担当教員	松本 栞	実務者経験	2013 年 3 月～2014 年 9 月 鍼灸整骨院に所属 鍼灸治療を担当
------	------	-------	---

学習内容	症候・疾患に対して現代医学的・東洋医学的観点からの病態生理、治療方法、施術の適応判断を学ぶ。
到達目標	臨床において現代医学的・東洋医学的両方の観点から症候・疾患を分析し、治療方法を考える力を身につける。 国家試験合格に必要な知識を身につける。

準備学習 時間外学習	東洋医学的観点からの診断において、東洋医学概論の基礎知識の復習が必要となる。 現代医学的観点からの診断において、臨床医学各論、臨床医学総論の復習・関連付けが必要となる。
使用教材	教科書『東洋医学臨床論（はりきゅう編）』（東洋療法学校協会編） 配布資料・B5 ファイル
留意点 備考	特になし

成績評価	各学期に小テストを実施、学期末試験 70%＋小テスト 30%で評価する。
------	--------------------------------------

授業計画【内容・目標】		
1	治療総論	【現代医学的】治療原則・治療計画 【東洋医学的】治療原理・治療原則・選穴配穴原則
2	頭痛	現代医学的頭痛の分類 治療法 東洋医学的頭痛の鑑別 弁証
3	顔面痛と歯痛	現代医学的顔面痛の鑑別 適応疾患 東洋医学的弁証 症状～治療方針
4	顔面麻痺	現代医学的鑑別・分類 東洋医学的分類・鑑別・治療方針
5	眼精疲労 鼻閉 鼻汁	現代医学的分類・適応疾患 東洋医学的分類・鑑別・弁証
6	めまい 耳鳴り 難聴	現代医学的分類・適応疾患 東洋医学的分類・鑑別・弁証・治療方針
7	脱毛	現代医学的分類・適応疾患 東洋医学的分類・鑑別・弁証・治療方針
8	咳嗽 喘息	現代医学的分類・適応疾患 東洋医学的分類・鑑別・弁証・治療方針
9	胸痛 腹痛	現代医学的分類・適応疾患 東洋医学的分類・鑑別・弁証・治療方針
10	悪心 嘔吐	現代医学的分類・適応疾患 東洋医学的分類・鑑別・弁証・治療方針
11	試験	試験
12	試験ふりかえり	試験解説

授業計画【内容・目標】		
1	便秘 下痢①	現代医学の分類・適応疾患 東洋医学の分類・鑑別・弁証・治療方針
2	便秘 下痢②	現代医学の分類・適応疾患 東洋医学の分類・鑑別・弁証・治療方針
3	月経異常①	現代医学の分類・適応疾患 東洋医学の分類・鑑別・弁証・治療方針
4	月経異常②	現代医学の分類・適応疾患 東洋医学の分類・鑑別・弁証・治療方針
5	排尿障害①	現代医学の分類・適応疾患 東洋医学の分類・鑑別・弁証・治療方針
6	排尿障害②	現代医学の分類・適応疾患 東洋医学の分類・鑑別・弁証・治療方針
7	勃起障害	現代医学の分類・適応疾患 東洋医学の分類・鑑別・弁証・治療方針
8	肩こり 頸肩腕痛	現代医学の分類・適応疾患 東洋医学の分類・鑑別・弁証・治療方針
9	肩関節痛 上肢痛①	現代医学の考え方 適応疾患 腱板炎・上腕二頭筋長頭腱炎などの解説 適応疾患：胸郭出口症候群、絞扼神経障害 症状、所見、治療方針、処方例
10	肩関節痛 上肢痛②	現代医学の考え方 適応疾患 腱板炎・上腕二頭筋長頭腱炎などの解説 適応疾患：胸郭出口症候群、絞扼神経障害 症状、所見、治療方針、処方例
11	試験	試験
12	試験ふりかえり	試験解説

担当教員	藤田 和樹	実務者経験	2012 年～2015 年 整骨院勤務 治療補助など担当 2009 年～高校ラグビー部トレーナー帯同 AT 業務全般担当
------	-------	-------	---

学習内容	徒手検査などの検査の施行、検査値について学習する。
到達目標	疾患の判断をおこない適切な徒手検査が行うことができる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	ずっと使える！鍼灸臨床 BOOK
留意点 備考	

成績評価	平常点：30%【小テスト：10 点満点】 本試験：70%【筆記試験：100 点満点】
------	--

2 学期 授業計画【内容・目標】		
1	血圧	血圧測定 血圧測定の実施に必要な事項を列挙できる
2	血圧	血圧のメカニズム 血圧にに必要な構造、機能を説明できる
3	血圧	高血圧 高血圧をきたす疾患を列挙できる
4	反射	反射弓 反射弓について説明できる
5	反射	深部反射以外の反射 深部反射以外の反射の名称を列挙できる
6	反射	反射の異常 反射の異常がおきる疾患を列挙できる
7	関節可動域	関節可動域 測定方法を説明できる
8	関節可動域	上肢の可動域測定
9	関節可動域	下肢の可動域測定
10	各種検査	上記検査以外の検査 血液検査や腫瘍マーカーなどの異常値を説明できる
11	試験	試験
12		

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	実技	血圧・反射・関節可動域 実技
2	実技	頸部・胸郭出口部の鑑別検査
3	実技	肩関節の鑑別検査
4	実技	上肢(肘関節・手関節)の鑑別検査 今までのおさらい
5	実技	腰臀部の鑑別検査
6	実技	膝関節の鑑別検査
7	実技	主要関節の関節可動域検査
8	実技	主要な部位の筋力検査(MMT)
9	実技	神経疾患の検査
10	試験	試験
11	試験	試験
12	まとめ	まとめ

科目

【英】	はりきゅう実技④～現代診断治療学～ 【Practice of Acupuncture and Moxibustion】			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	72	単 位	2
学 年	2 年生	学 期	通 年	曜 日	火曜	時 限	1 限

担当教員	清藤 直人	実務者経験	2002 年～ 清藤鍼灸院にて鍼灸治療などを担当 2007 年～ 同院院長として業務に従事
------	-------	-------	--

学習内容	暗記と共に、正しく素早く取穴ができるように解剖学的形態を理解する。
到達目標	① 主に整形外科的疾患に対し、構造機能的理解と診察診断法の修得 ② 現代医学的 BM に基づく施鍼技術の修得

準備学習 時間外学習	
使用教材	配布プリント
留意点 備 考	

成績評価	本試験 60% 出席点 40%
------	-----------------

1 学期 授業計画【内容・目標】		
1	鍼灸臨床と現代医学	診察・治療を行う上で必要な知識（普通教室で行う）
2	基礎実技①	技術の確認、体表観察能力検定
3	基礎実技②	現代的・東洋的治療の相違点を実技で確認
4	頭痛の診察・検査・治療①	頭痛に対する局所治療（使用鍼：寸 3－2 番）
5	頭痛の診察・検査・治療②	頭痛に対する遠隔療法（使用鍼：寸 3－1 番）
6	頸部疾患の診察・検査・治療①	頸椎症に対する低周波通電療法（使用鍼：寸 3－5 番）
7	頸部疾患の診察・検査・治療②	頸椎症に対する遠隔療法（使用鍼：寸 3－1 番）
8	頸部疾患の診察・検査・治療③	胸郭出口症候群（使用鍼：寸 3－1 番）
9	1 学期復習	振り返り
10	試験	試験
11	試験	試験
12	まとめ	まとめ

2 学期 授業計画【内容・目標】		
1	肩関節の診察・検査・治療①	肩こり（使用鍼：寸3－2番）
2	肩関節の診察・検査・治療②	五十肩（使用鍼：寸3－2番）
3	肩関節の診察・検査・治療③	腱板炎（使用鍼：寸3－3番）
4	上肢疾患の診察・検査・治療	上腕二頭筋長頭腱炎（使用鍼：寸3－2番）
5	上肢末梢神経障害の診察・検査・治療	肘部管・手根管・ギヨン管症候群（使用鍼：1寸－2番）
6	腰部の診察・検査・治療①	筋筋膜性腰痛（使用鍼：寸6－3番）
7	腰部の診察・検査・治療②	椎間関節腰痛、腰部脊柱管狭窄症（使用鍼：寸6－3番）
8	腰部の診察・検査・治療③	腰椎椎間板ヘルニア（使用鍼：寸3－2番）
9	2 学期復習	振り返り
10	試験	試験
11	試験	試験
12	まとめ	まとめ

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	腰下肢部の診察・検査・治療①	坐骨神経痛（使用鍼：寸3 or 6－5番）低周波通電療法
2	腰下肢部の診察・検査・治療②	仙腸関節、股関節疾患（使用鍼：寸3－1 or 2番）
3	膝疾患の診察・検査・治療①	変形性膝関節症（使用鍼：寸6－5番）灸頭鍼（紙巻艾）
4	下肢の診察・検査・治療	コンパートメント、アキレス腱炎（使用鍼：寸3 or 6－5番）低周波通電療法
5	下肢スポーツ障害	オスグッド、ランナー膝、シンスプリント（使用鍼：寸3－2番）
6	疾患別リクエスト①	要望の多い疾患に応え、治療法を伝授する。
7	疾患別リクエスト②	要望の多い疾患に応え、治療法を伝授する
8	疾患別リクエスト③	要望の多い疾患に応え、治療法を伝授する
9	3 学期復習	
10	試験	試験
11	試験	試験
12	まとめ	まとめ

科目

【英】	はりきゅう実技⑤～中医診断治療学Ⅰ～ 【Practice of Acupuncture and Moxibustion】			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	72	単位	2
学年	2年生	学期	通年	曜日	土曜	時限	1.2限

担当教員	一井 綾乃	実務者経験	1996年4月～鍼灸院所属、 1996年7月～2013年3月大阪医大付属病院麻酔科ペインクリニック所属
------	-------	-------	--

学習内容	東洋医学的な観点からの診断学・治療学を学ぶ。
到達目標	「舌診」「脈診」「腹診」の基本技術を身につけながら、主要症候に対して、中医学に基づいた観点からの鍼灸治療を行えるようにする。

準備学習 時間外学習	東洋医学概論、経穴学を復習する。
使用教材	配布プリント
留意点 備考	基本的には鍼は1寸3分の1番鍼、2番鍼、3番鍼を使用する。

成績評価	毎時間片手挿管、紙上施灸を実施。それを平常点とし20～30%＋期末試験70～80%で評価する。
------	---

1学期 授業計画【内容・目標】		
1	オリエンテーション	1年次の復習、2年次終了時までの到達目標を把握する。
2	四診1	四診とは何かを学習し、舌診のやり方を理解する。
3	四診2	舌診を理解し、診ることができる。
4	四診3	脈診と腹診を理解し、診ることができる。
5	診断1	陰陽の虚証、実証の症候を診ることができる。
6	診断2	気の虚証、実証の症候を診ることができる。
7	診断3	血の虚証、実証の症候を診ることができる。
8	診断4	津液の虚証、実証の症候と精の虚証を診ることができる。
9	まとめ	試験の内容を理解し、練習する。
10	試験	試験
11	試験	試験
12	振り返り	1学期の内容を理解し、復習する。

2 学期 授業計画【内容・目標】		
1	診断 1	肝の病証に対して診断を下し、治療することができる。
2	診断 2	心の病証に対して診断を下し、治療することができる。
3	診断 3	脾の病証に対して診断を下し、治療することができる。
4	診断 4	肺の病証に対して診断を下し、治療することができる。
5	診断 5	腎の病証に対して診断を下し、治療することができる。
6	診断 6	肝の病証に対して診断を下し、治療することができる。
7	診断 7	心の病証に対して診断を下し、治療することができる。
8	診断 8	脾の病証に対して診断を下し、治療することができる。
9	まとめ	試験の内容を理解し、練習する。
10	試験	試験
11	試験	試験
12	振り返り	2 学期の内容を理解し、復習する。

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	診断 1	肺の病証に対して診断を下し、治療することができる。
2	診断 2	腎の病証に対して診断を下し、治療することができる。
3	診断 3	肝の病証に対して診断を下し、治療することができる。
4	診断 4	心の病証に対して診断を下し、治療することができる。
5	診断 5	脾の病証に対して診断を下し、治療することができる。
6	診断 6	肺の病証に対して診断を下し、治療することができる。
7	診断 7	腎の病証に対して診断を下し、治療することができる。
8	診断 8	六腑の病証に対して診断を下し、治療することができる。
9	まとめ	試験の内容を理解し、練習する。
10	試験	試験
11	試験	試験
12	振り返り	3 学期の内容を理解し、復習する。

科 目

【英】	はりきゅう実技⑥～特殊鍼法Ⅰ・Ⅱ～ 【Practice of Acupuncture and Moxibustion】			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	72	単 位	2
学 年	2 年生	学 期	通 年	曜 日	金曜	時 限	1,2 学期：2 限 3 学期：1 限

1,2 学期 担当教員	丸 茂 美保子	実務者経験	1992 年～2004 年 鍼灸院や整形外科に所属 2004 年～2014 年 教員養成・専門学校専任教員 2014 年開業
3 学期 担当教員	酒 井 美登子	実務者経験	2002 年～2004 年 整形外科リハビリ室にてあまし師として従事 2008 年～ 専門学校にて非常勤講師として従事 2009 年～ 開業

1,2 学期 学習内容	身体部位別刺鍼技術の習得（硬結部位・虚実部位）またその部位にある経穴の穴性を学ぶ。 臨床実習に向け、問診・検診・処方をグループで行い、施術し結果を確認する。
3 学期 学習内容	臨床でよく出会う疾患に対して鍼灸適応か不適応かを見分け、東洋医学と西洋医学の両面からのアプローチをしていく。疾患ごとに病態を把握して、治療穴の選穴を学び、実際にその穴に鍼灸実技を行う。
1,2 学期 到達目標	身体の状態に合わせた刺鍼ができるようにする。また臨床実習に向けて各自で診断・処方が出来るようにする。
3 学期 到達目標	各疾患の病態を把握したうえで、患者様のお身体にどのようなアプローチが出来るか臨床現場で困らないようにする。

準備学習 時間外学習	東洋医学臨床論（はりきゅう編）に目を通しておく。
使用教材	〔教科書〕東洋医学臨床論（はりきゅう編）、滋慶共通テキスト、鍼灸マニュアル 〔プリント〕各回 20～30 分程度プリントで学習する。
留意点 備 考	授業の始めに灸（5 分間）と片手挿管（1 分×3 回）を交互に行う。

1,2 学期 成績評価	実技試験 70 点 平常点・授業への積極的な参加（グループワーク）30 点
3 学期 成績評価	本試験 80 点 平常点 20 点

1 学期 授業計画【内容・目標】		
1	オリエンテーション	授業の進め方・評価についての説明、施術力の確認
2	身体観察刺鍼	施術部位の状態を確認し、症状のある部位への施術 経穴の穴性を学ぶ
3	身体観察刺鍼	施術部位の状態を確認し、症状のある部位への施術 経穴の穴性を学ぶ
4	身体観察刺鍼	施術部位の状態を確認し、症状のある部位への施術 経穴の穴性を学ぶ
5	身体観察刺鍼	施術部位の状態を確認し、症状のある部位への施術 経穴の穴性を学ぶ
6	身体観察刺鍼	施術部位の状態を確認し、症状のある部位への施術 経穴の穴性を学ぶ
7	グループワーク	グループにて問診・東洋医学的診断・処方・施術を行う（発表あり）
8	グループワーク	グループにて問診・東洋医学的診断・処方・施術を行う（発表あり）
9		試験前 まとめ
10	試験	試験
11	試験	試験
12		試験後 まとめ 試験フィードバック

2 学期 授業計画【内容・目標】		
1	グループワーク	グループにて問診・東洋医学的診断・処方・施術を行う（発表あり）
2	グループワーク	グループにて問診・東洋医学的診断・処方・施術を行う（発表あり）
3	グループワーク	グループにて問診・東洋医学的診断・処方・施術を行う（発表あり）
4	グループワーク	グループにて問診・東洋医学的診断・処方・施術を行う（発表あり）
5	グループワーク	グループにて問診・東洋医学的診断・処方・施術を行う（発表あり）
6	グループワーク	グループにて問診・東洋医学的診断・処方・施術を行う（発表あり）
7	グループワーク	グループにて問診・東洋医学的診断・処方・施術を行う（発表あり）
8	グループワーク	グループにて問診・東洋医学的診断・処方・施術を行う（発表あり）
9		試験前 まとめ
10	試験	試験
11	試験	試験
12		試験後 まとめ 試験フィードバック

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	東洋医学臨床論 I	腰痛・腰下肢痛
2	II	頸・肩のこり・痛み
3	III	膝痛・運動麻痺
4	IV	月経異常・排尿障害・ED
5	V	高血圧・低血圧
6	VI	悪心と嘔吐・便秘・下痢
7	VII	食欲不振・肥満
8	VIII	発熱・冷え・のぼせ
9	IX	不眠・疲労と倦怠
10	試験	試験
11	試験	試験
12	総括	試験の講評、今後の課題

科 目

【英】	臨床実習① 【Clinical Education】			必修/選択	必修	授業形式	臨床実習
				総時間数	60	単 位	1
学 年	2 年生	学 期	通 年	曜 日	1 学期：土曜 3 学期：月曜	時 限	1 学期：1,2 限 3 学期：1 限

1 学期 担当教員	藤田 和樹	1 学期 実務者経験	2012 年～2015 年 整骨院勤務 治療補助など担当 2009 年～高校ラグビー部トレーナー帯同 AT 業務全般担当
3 学期 担当教員	松本 栞	3 学期 実務者経験	2013 年 3 月～2014 年 9 月 鍼灸整骨院に所属 鍼灸治療を担当
3 学期 担当教員	篠塚 知恵子	3 学期 実務者経験	2015 年 7 月～2016 年 3 月 鍼灸院に所属 鍼灸院にて鍼灸施術をおこなう

学習内容	3 年次の臨床実習に必要な医療面接やカルテ記載の方法など、実習を通して獲得する。
到達目標	医療面接において必要な情報をスムーズに聴取することができる。 カルテ記載において、医療面接より得た情報を詳細にまとめることができる。

準備学習 時間外学習	自身でかかったことのある医療機関のことを思い出してみる。
使用教材	ずっと使える！鍼灸臨床 BOOK 配布資料など
留意点 備考	健常者への聴取になるが、患者役の訴えを親身に聴くようにする。

成績評価	出席点【1 学期は実技試験の評価も加味する】＋レポート評価 ※原則 100%の出席にて評価する。
------	--

1 学期 授業計画【内容・目標】		
1	医療面接①	オリエンテーション 医療面接について 方法論や聴取する内容についての講義
2	医療面接②	医療面接実技 患者役と施術者役に分かれそれぞれ医療面接をおこなう
3	医療面接+鍼灸実技	それぞれの障害部位を聴取し、施術案を立案、実施してみる
4	医療面接+鍼灸実技	それぞれの障害部位を聴取し、施術案を立案、実施してみる
5	医療面接+鍼灸実技	それぞれの障害部位を聴取し、施術案を立案、実施してみる
6	医療面接+鍼灸実技	それぞれの障害部位を聴取し、施術案を立案、実施してみる
7	医療面接+鍼灸実技	それぞれの障害部位を聴取し、施術案を立案、実施してみる
8	医療面接+鍼灸実技	それぞれの障害部位を聴取し、施術案を立案、実施してみる
9	医療面接+鍼灸実技	それぞれの障害部位を聴取し、施術案を立案、実施してみる
10	物理療法	超音波治療器、低周波治療器、鍼通電治療器、電子温灸器の使用法
11	物理療法	超音波治療器、低周波治療器、鍼通電治療器、電子温灸器の使用法
12	物理療法	超音波治療器、低周波治療器、鍼通電治療器、電子温灸器の使用法

2 学期 授業計画【内容・目標】		
1	外部臨床実習	外部医療施設にて実習をおこなう
2	外部臨床実習	外部医療施設にて実習をおこなう
3	外部臨床実習	外部医療施設にて実習をおこなう
4	外部臨床実習	外部医療施設にて実習をおこなう
5	外部臨床実習	外部医療施設にて実習をおこなう
6	外部臨床実習	外部医療施設にて実習をおこなう
7	外部臨床実習	外部医療施設にて実習をおこなう
8	外部臨床実習	外部医療施設にて実習をおこなう
9	外部臨床実習	外部医療施設にて実習をおこなう
10	外部臨床実習	外部医療施設にて実習をおこなう
11	外部臨床実習	外部医療施設にて実習をおこなう
12	外部臨床実習	外部医療施設にて実習をおこなう

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	鍼灸臨床研究	鍼灸の臨床研究について知る
2	鍼灸臨床研究	自分の興味がある研究を調べてみる
3	鍼灸臨床研究	研究内容を立案する
4	鍼灸臨床研究	研究内容を立案する
5	鍼灸臨床研究	研究内容を立案する
6	鍼灸臨床研究	研究内容を立案する
7	カルテ記載	カルテに記載する情報にどのようなものがあるのか学ぶ
8	カルテ記載	カルテに記載する情報にどのようなものがあるのか学ぶ
9	カルテ記載	カルテに記載する情報にどのようなものがあるのか学ぶ 症例を用いて分類分けをする
10	カルテ記載	カルテに記載する情報にどのようなものがあるのか学ぶ 症例を用いて分類分けをする
11	カルテ記載	カルテに記載する情報にどのようなものがあるのか学ぶ 症例を用いて分類分けをする
12	カルテ記載	カルテに記載する情報にどのようなものがあるのか学ぶ 症例を用いて分類分けをする

科 目

【英】	保健体育 【Health and Physical Education】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	48	単 位	3
学 年	3 年生	学 期	1.2 学期	曜 日	水曜	時 限	2 限

担当教員	渡辺 久美子	実務者経験	2002 年 大阪体育大学にて中学校体育教諭第 1 種免許状取得 2015 年～ 訪問鍼灸専門スマイル治療院開院
------	--------	-------	---

学習内容	また実践で（今すぐ）行える処置ならびに運動療法等の習得を目指す。
到達目標	西洋医学的な立場から臨床現場において必要な処置および治療等に関する医学的知識の習得。

準備学習 時間外学習	
使用教材	【配布資料】あり
留意点 備 考	

成績評価	本試験 100%
------	----------

授業計画【内容・目標】		
1	頭部のスポーツ外傷	分類と救急処置
2	顔面のスポーツ外傷	分類と処置
3	リハビリテーション とスポーツ復帰①	運動療法と復帰時期についての理論
4	リハビリテーション とスポーツ復帰②	運動療法と復帰時期についての実践
5	スポーツと栄養	アスリートに必要な栄養素と摂取法
6	性別、年代別のス ポーツ①	女性とスポーツ、中高年とスポーツ、成長期とスポーツ①
7	性別、年代別のス ポーツ②	女性とスポーツ、中高年とスポーツ、成長期とスポーツ②
8	内科的疾患と運動療 法①	代表的な疾患の運動療法と注意点①
9	内科的疾患と運動療 法②	代表的な疾患の運動療法と注意点②
10	ストレッチの基礎と 実技	ストレッチの種類と効果
11	試験	試験
12	テスト解説、まとめ	

授業計画【内容・目標】		
1	競技別のアスリハ (野球)	代表的外傷の予防と治療法
2	実技	肩背部、肘関節周辺への施術
3	実技	野球肩に対しての運動療法
4	競技別のアスリハ (バスケットボール)	代表的外傷の予防と治療法
5	実技	下肢への施術
6	実技	バスケットボール選手への下肢運動器疾患への運動療法
7	競技別のアスリハ (陸上)	代表的外傷の予防と治療法
8	実技	下肢への施術
9	実技	陸上選手への運動療法
10	試験前復習	
11	試験	試験
12	テスト解説、まとめ	

科目

【英】	経営マネジメント 【Office Management】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	24	単 位	1
学 年	3 年生	学 期	2 学期	曜 日	金曜	時 限	2 限

担当教員	柳野 隆生	実務者経験	～1970 年 弁理士試験合格・関西大学法学部卒 1970 年～1975 年 大手化学会社・知財法務事務所勤務 1975 年～国際知財法務事務所を開設し、知財法務・研究開発・ベンチャービジネス育成とトップ育成を融合した業務を行い、実務経験を得る
------	-------	-------	--

学習内容	開業に向け、必要な知識を学ぶ。
到達目標	将来に向けて、自己のビジネスプランを作成する。

準備学習 時間外学習	
使用教材	【教科書】なし 【配布資料】あり
留意点 備考	成績評価はビジネスプランの 100 点評価でおこなう。

成績評価	本試験 100%
------	----------

2 学期 授業計画【内容・目標】		
1	これからやらなければならないこととビジネスプランの作成①	独自性、ベンチャー、知の高度化、バイタリティ、専門化、知の連鎖、工夫・改善・開発等の要素の意味の学習
2	これからやらなければならないこととビジネスプランの作成②	ビジネスプラン作成方法について
3	参考になる他の業界の動き、ベンチャービジネスから学ぶ①	国内外のベンチャービジネスの事例。オンリーワン志向となる病院では？ベンチマーク、複合技術等
4	参考になる他の業界の動き、ベンチャービジネスから学ぶ②	まとめ
5	特徴ある技術を持つには？①	多くの事例から特徴ある技術を学ぶ 自分の特許技術を持つにはどうするか
6	特徴ある技術を持つには？②	まとめ
7	特徴あるビジネスモデルを持つには①	マーケティング、RM、アライアンス等で自己のビジネスモデルをどう作るか
8	特徴あるビジネスモデルを持つには②	他のビジネスモデルの事例から学ぶ ビジネスプランの提出
9	できる・できないあなたが変われば院も変わる	信頼される接遇のイロハ①
10	できる・できないあなたが変われば院も変わる	信頼される接遇のイロハ②
11	試験	試験
12	復習	

科 目

【英】	臨床医学総論② 【Clinical Medicine in General】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	72	単 位	4
学 年	3 年生	学 期	通 年	曜 日	1 学期：月曜 2 学期：月曜 3 学期：土曜	時 限	1 学期：2 限 2 学期：1 限 3 学期：1,2 限

担当教員	真田 浩二	実務者経験	2000 年 4 月～2002 年 3 月 鍼灸院に所属 往診および鍼灸院にて鍼灸施術をおこなう
------	-------	-------	---

学習内容	現代医学的な観点からの診察学〔検査法・主な症状の診察法など〕・治療学・臨床心理を学ぶ。 鍼灸師に必要な項目のみならず、幅広く現代医学的鑑別診断による病態把握を学ぶ。
到達目標	症候から現代医学的な観点で鑑別診断ができる。臨床の場において実際に活用できるレベル、 かつはり師・きゅう師国家試験に対応できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の予習が必要。臨床医学各論との関連を復習する。
使用教材	配布プリント「臨床医学総論」
留意点 備考	副教材として解剖学・生理学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	各学期に約 5 回小テスト実施。期末試験 80%＋小テスト 20%で評価。再試験は試験 100%、小テストは含まない。
------	---

授業計画【内容・目標】		
1	診断学 32	全身状態の診察 15【皮膚・粘膜・皮下組織 4】
2	診断学 33	全身状態の診察 16【皮膚・粘膜・皮下組織 5】
3	診断学 34	全身状態の診察 17【皮膚・粘膜・皮下組織 6】
4	診断学 35	全身状態の診察 18【皮膚・粘膜・皮下組織 7】
5	診断学 36	局所状態の診察 1【頭頸部 1】
6	診断学 37	局所状態の診察 2【頭頸部 2】
7	診断学 38	局所状態の診察 3【胸部・腹部】
8	診断学 39	局所状態の診察 4【直腸・肛門・外性器・背部】
9	診断学 40	局所状態の診察 5【四肢】
10	診断学 41	そのほかの診察【関節可動域・救急時・女性・小児・高齢者】 臨床検査 1【概要・尿検査 1】
11	試験	
12	試験解答・解説	試験の解答および解説

授業計画【内容・目標】		
1	診断学 42	臨床検査 2【尿検査 2・糞便検査・血液検査】
2	診断学 43	臨床検査 3【血液生化学検査】
3	診断学 44	臨床検査 4【免疫学的検査】
4	診断学 44	臨床検査 4【自己抗体検査】
5	診断学 44	臨床検査 4【喀痰検査】
6	診断学 44	臨床検査 4【髄液検査】
7	診断学 44	臨床検査 4【関節液検査】
8	診断学 45	生命徴候の診察 1【体温】
9	診断学 46	生命徴候の診察 2【脈拍】
10	診断学 47	生命徴候の診察 3【血圧 1】
11	試験	試験
12	試験解答・解説	試験の解答および解説

授業計画【内容・目標】		
1	診断学 48	生命徴候の診察 4【血圧 2】
2	診断学 49	生命徴候の診察 5【呼吸】
3	診断学 50	身体計測・神経系の診察 1【感覚系の診察 1】
4	診断学 51	神経系の診察 2【感覚系の診察 2】
5	診断学 52	神経系の診察 3【反射の診察】
6	診断学 53	神経系の診察 4【脳神経系の診察 1】
7	診断学 54	神経系の診察 4【脳神経系の診察 2】
8	診断学 54	神経系の診察 4【髄膜刺激症状の診察 1】
9	診断学 55	神経系の診察 5【運動機能の診察 2】
10	診断学 56	神経系の診察 6【運動機能の診察 2】
11	診断学 57	神経系の診察 7【運動機能の診察 3】
12	治療学 臨床心理	治療学 臨床心理

科 目

【英】	臨床医学各論③ 【Clinical Medicine Part】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	48	単 位	3
学 年	3 年生	学 期	1.2 学期	曜 日	1.2 学期：月 曜	時 限	1 学期：1 限 2 学期：2 限

1 学期 担当教員	山口 隆平	1 学期 実務者経験	野々村整形外科クリニック（平成 16 年 4 月～平成 17 年 10 月）
2 学期 担当教員	後藤 卓	2 学期 実務者経験	2001 年 4 月～2003 年 3 月 鍼灸院に所属 鍼灸院にて鍼灸施術をおこなう

学習内容	臨床医学各論は各疾患の症状や検査などについて学ぶもので解剖学や生理学の基礎を基に各疾患について深く講義していく。
到達目標	現代医学的な観点からの臨床医学を学ぶ。各疾患の概念、疫学、病因、病態生理、症状、診断、治療などを理解し、臨床の場において実際に活用できるレベル、かつ国家試験に対応できるレベルまでを学ぶことを目標とする。

準備学習 時間外学習	1 年次、2 年次に学んだ解剖学・生理学の復習
使用教材	【教科書】臨床医学各論 【配布資料】あり
留意点 備 考	なし

成績評価	各学期に 4 回小テストを実施。期末試験 70%＋小テスト 30%で評価する。
------	---

授業計画【内容・目標】		
1	代謝・栄養疾患①	糖代謝異常〔糖尿病〕・脂質代謝異常〔高脂血症〕
2	代謝・栄養疾患②	脂質代謝異常〔肥満症・るいそう〕
3	代謝・栄養疾患③	尿酸代謝異常〔高尿酸血症・痛風〕 その他の代謝異常症〔ビタミン欠乏症過剰症・骨軟化症・くる病〕
4	循環器疾患①	心臓疾患〔心不全・心臓弁膜疾患〕
5	循環器疾患②	心臓疾患〔不整脈・その他〕冠動脈疾患〔狭心症・心筋梗塞〕
6	循環器疾患③	動脈疾患〔動脈硬化症・大動脈瘤・大動脈解離〕
7	循環器疾患④	血圧異常〔高血圧症・低血圧症〕
8	消化管疾患①	口腔疾患〔歯周病・顎関節症・その他の口腔疾患〕 食道疾患〔食道癌・食道炎・食道潰瘍・その他の食道疾患〕
9	消化管疾患②	胃・十二指腸疾患〔胃炎・胃十二指腸潰瘍・胃癌・その他の胃・十二指腸疾患〕
10	消化管疾患③	腸疾患〔急性腸炎・潰瘍性大腸炎・クローン病・ 過敏性腸症候群・虫垂炎・大腸癌・腸閉塞〕
11	試験	試験
12	消化管疾患④	腸疾患〔その他の腸疾患〕 腹膜疾患〔急性腹膜炎・結核性腹膜炎・癌性腹膜炎〕

授業計画【内容・目標】		
1	その他の領域①	一般外科〔損傷概論・ショック・救急処置・心肺蘇生術〕
2	その他の領域②	麻酔科〔全身麻酔〕 麻酔科〔局所麻酔〕
3	その他の領域④	精神科疾患〔神経症・統合失調症・うつ病・アルコール依存症〕
4	その他の領域⑤	心療内科〔心身症・神経性食欲不振症・神経性過食症〕
5	まとめ	これまでの授業の内容のまとめ
6	国家試験対策	これまでの授業の内容を国家試験の出題傾向をもとに復習
7	国家試験対策	これまでの授業の内容を国家試験の出題傾向をもとに復習
8	国家試験対策	これまでの授業の内容を国家試験の出題傾向をもとに復習
9	国家試験対策	これまでの授業の内容を国家試験の出題傾向をもとに復習
10	国家試験対策	これまでの授業の内容を国家試験の出題傾向をもとに復習
11	国家試験対策	これまでの授業の内容を国家試験の出題傾向をもとに復習
12	国家試験対策	これまでの授業の内容を国家試験の出題傾向をもとに復習

科 目

【英】	リハビリテーション医学② 【Rehabilitation Medicine】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	72	単 位	4
学 年	3 年生	学 期	通 年	曜 日	木曜	時 限	1,2 限 : 2 限 3 学期 : 1 限

担当教員	中塚 和樹	実務者経験	2002 年 4 月～ 大和中央病院所属。 外来・入院の急性期～回復期までのリハビリテーションを行う。
------	-------	-------	--

学習内容	一般病院でのリハビリテーション対象疾患となる病態の理解と基本的な運動療法知識の習得。
到達目標	各疾患に対する運動療法に対して必要な知識と基礎的な評価・運動療法技術の習得。

準備学習 時間外学習	運動学・解剖学・各種病態の基礎知識の理解を進める。
使用教材	リハビリテーション医学 第 4 版（東洋療法学校協会） 配布プリント
留意点 備 考	授業のはじめと最後に同一の小テストを行い、授業内での予習復習を行うこと。 授業行う教室は適宜変更していくため、確認しておくこと。

成績評価	期末試験 100%
------	-----------

1 学期 授業計画【内容・目標】		
1	脊髄損傷 1	①脊髄損傷の後遺症 ②教科書 ③プリント PC プロジェクター ④教室
2	脊髄損傷 2	①脊髄損傷の運動療法概論 ②教科書 実技可能な服装 ③プリント PC プリント車椅子 松葉杖 ④実技室
3	切断	①切断の合併症 義足について ②教室 ③プリント PC プロジェクター ④教室
4	小児リハ 1	①正常発達の理解 ②教科書 ③プリント PC プロジェクター ④教室
5	小児リハ 2	①脳性麻痺の定義・分類の理解。②教科書③プリント・PC・プロジェクター④教室
6	リウマチ	①リウマチの病体生理と変形予防の運動療法②教科書 ③プリント PC プロジェクター④教室
7	末梢神経障害	①末梢神経損傷の病体生理（各変形の生理）②教科書 ③プリント PC・プロジェクター
8	パーキンソン病	①パーキンソン病の病体生理②教科書③プリント PC プロジェクター④教室
9	呼吸器疾患 （胸郭の運動学）	①慢性閉塞性肺疾患の病体生理（呼吸生理学・運動学）②教科書・実技可能な服装 ③プリント PC プロジェクター ラジカセ 聴診器 ④実技室/鍼灸実技室
10	1 期まとめ	①試験前まとめ ②教科書 プリント ③PC プロジェクター ④教室
11	試験	試験
12	1 期試験解説と 形態測定	①試験解説 四肢長測定 ②教科書 計測しやすい服装 ③プリント メジャー ④実技室

2 学期 授業計画【内容・目標】		
1	形態測定	①周径測定 ②教科書 計測しやすい服装 ③プリント メジャー ④実技室
2	関節可動域測定 1	①上肢の関節可動域測定 ②教科書 計測しやすい服装 ③教科書 ④実技室
3	関節可動域測定 2	①下肢の関節可動域測定 ②教科書 計測しやすい服装 ③教科書 ④実技室
4	肩関節周囲炎 (肩関節運動学)	①肩関節の機能解剖学と肩関節周囲炎の病態と運動療法(関節可動域改善と筋力強化) ②教科書 P134～P137 P202～P208 ③プリント 実技可能服装 ダンベル PC プロジェクター④鍼灸実技室
5	腰痛 (脊椎運動学)	①腰痛の病体生理(腰椎・骨盤の運動学)②教科書・実技が可能な服装 ③プリント PC プロジェクター 簡易ベッド ④基礎医学教室/ 鍼灸実技室
6	変形性膝関節症 (膝関節運動学)	①変形性膝関節症の病体生理(膝関節の運動学)②教科書・実技が可能な服装 ③プリント PC プロジェクター 簡易ベッド テーピング ④基礎医学教室/ 鍼灸実技室
7	変形性股関節症 大腿骨頸部骨折 (股関節運動学)	①大腿骨頸部骨折の病体生理(股関節の運動学)②教科書 ③プリント PC プロジェクター 簡易ベッド ④基礎医学教室/ 鍼灸実技室
8	徒手筋力テスト 1	①上肢の徒手筋力測定 ②教科書 測定しやすい服装 ③プリント ④実技室
9	徒手筋力テスト 1	①下肢の徒手筋力測定 ②教科書 測定しやすい服装 ③プリント ④実技室
10	2 期まとめ	①試験前まとめ②教科書 プリント ③PC プロジェクター ④教室
11	試験	試験
12	2 期試験解説と 物理療法 1	① 2 期試験解説と物理療法 ②教科書 ③プリント PC プロジェクター ④教室

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	物理療法 2	①物理療法 ②教科書 ③プリント PC プロジェクター ④教室
2	関節可動域訓練 1 (頸椎足関節運動学)	①頸椎 足関節の関節可動域訓練 ②教科書・実技が可能な服装 ③プリント④実技室
3	関節可動域訓練 2 (肩・股関節)	①肩 股関節の関節可動域訓練 ②教科書・実技が可能な服装③プリント④実技室
4	筋力トレーニング 1	①筋力増加のメカニズム 上肢の筋力強化方法 ②教科書 実技が可能な服装 ③プリント PC プロジェクター ダンベル等 ④実技室
5	筋力トレーニング 2	①体幹下肢の筋力強化方法 ②教科書 実技が可能な服装 ③プリント PC プロジェクター ダンベル等 ④実技室
6	国家試験対策 1	①過去問を各疾患別に分けた問題を行う。②教科書等 ③プリント PC プロジェクター④教室
7	国家試験対策 2	①過去問を各疾患別に分けた問題を行う。②教科書等 ③プリント PC プロジェクター④教室
8	国家試験対策 3	①過去問を各疾患別に分けた問題を行う。②教科書等 ③プリント PC プロジェクター④教室
9	国家試験対策 4	①過去問を各疾患別に分けた問題を行う。②教科書等 ③プリント PC プロジェクター④教室
10	3 期まとめ	①試験前まとめ②教科書プリント③PC プロジェクター④教室
11	試験	試験
12	3 期試験解説と 総まとめ	①試験解説 国家試験対策②教科書・プリント③PC プロジェクター④教室

科 目

【英】	東洋医学臨床論③ 【Clinical Oriental Medicine】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	24	単 位	1
学 年	3 年生	学 期	1 学期	曜 日	土曜	時 限	1.2 限

担当教員	松本 栞	実務者経験	2013 年 3 月～2014 年 9 月 鍼灸整骨院に所属 鍼灸治療を担当
------	------	-------	---

学習内容	症候・疾患に対して現代医学的・東洋医学的観点からの病態生理、治療方法、施術の適応判断を学ぶ。
到達目標	臨床において現代医学的・東洋医学的両方の観点から症候・疾患を分析し、治療方法を考える力を身につける。 国家試験合格に必要な知識を身につける。

準備学習 時間外学習	東洋医学的観点からの診断において、東洋医学概論の基礎知識の復習が必要となる。 現代医学的観点からの診断において、臨床医学各論、臨床医学総論の復習・関連付けが必要となる。
使用教材	教科書『東洋医学臨床論（はりきゅう編）』（東洋療法学校協会編） 配布資料・B5 ファイル
留意点 備考	特になし

成績評価	小テストを実施、学期末試験 70%＋小テスト 30%で評価する。
------	----------------------------------

授業計画【内容・目標】		
1	スポーツ障害①	【上肢】現代医学的病態把握・適応疾患・治療方針 東洋医学的考え方：分類・弁証など
2	スポーツ障害②	【上肢】現代医学的病態把握・適応疾患・治療方針 東洋医学的考え方：分類・弁証など
3	スポーツ障害③	【上肢】現代医学的病態把握・適応疾患・治療方針 東洋医学的考え方：分類・弁証など
4	スポーツ障害④	【下肢】現代医学的病態把握・適応疾患・治療方針 東洋医学的考え方：分類・弁証など
5	スポーツ障害⑤	【下肢】現代医学的病態把握・適応疾患・治療方針 東洋医学的考え方：分類・弁証など
6	高齢者医療	現代医学的病態把握
7	高齢者医療	現代医学的病態把握
8	高齢者医療	現代医学的病態把握
9	診察の記録・評価法	施術記録（SOAP分類）・痛みの評価
10	診察の記録・評価法	各種領域の評価法（耳鼻科・消化器科・婦人科・泌尿生殖器科・精神科・高齢者）
11	試験	試験
12	試験解説	

科目

【英】	関係法規 【Legal Issues in Medicine】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	48	単 位	3
学 年	3 年生	学 期	1.2 学期	曜 日	1 学期：金曜 2 学期：水曜	時 限	1 学期：2 限 2 学期：1 限

担当教員	山口 隆平	実務者経験	野々村整形外科クリニック（平成16年4月～平成17年10月）
------	-------	-------	--------------------------------

学習内容	はり師・きゅう師の国家試験、開業に必要な法規を学ぶ。
到達目標	・はり師・きゅう師国家試験問題に対応できるようになる。 ・開業時に必要な法律が理解できるようになる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	【教科書】関係法規第7版
留意点 備考	

成績評価	本試験 70% 平常点 30%
------	-----------------

授業計画【内容・目標】		
1	オリエンテーション	法規とは？ 評価方法説明
2	はり師・きゅう師に関する法律①	免許と試験
3	はり師・きゅう師に関する法律②	免許と試験
4	はり師・きゅう師に関する法律③	施術に関する注意 施術所に関する規則
5	はり師・きゅう師に関する法律④	名称制限・広告制限・罰金・罰則
6	法と実定法	法とは何か 法の種類
7	国試演習①	問題演習
8	国試演習②	問題演習
9	国試演習③	問題演習
10	国試演習③	問題演習
11	試験	試験
12	試験解説	

授業計画【内容・目標】		
1	医事法規と医療制度・医療法	病院・診療所・助産所について
2	国家試験願書下書き	願書練習
3	国家試験願書本番	願書本番
4	医療法	病院・診療所・助産所について
5	医師法 その他の医療従事者に関する法律 衛生関係法規	各医療従事者の法律 保健一般・予防衛生・環境衛生に関する法律
6	社会福祉関係法規 社会保険関係法規	福祉の7法 医療保障制度
7	国試演習①	問題演習
8	国試演習②	問題演習
9	国試演習③	問題演習
10	国試演習④	問題演習
11	試験	
12	試験解説	

科 目

【英】	はりきゅう実技⑦～臨床応用学Ⅰ～ 【Practice of Acupuncture and Moxibustion】			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	72	単 位	2
学 年	3 年生	学 期	通 年	曜 日	1 学期：水曜 2 学期：木曜 3 学期：火曜	時 限	1 学期：1 限 2 学期：1 限 3 学期：2 限

1 学期 担当教員	向井 陽子	実務者経験	2006 年～ 向井鍼灸院開院 国内外でスポーツメディカルトレーナーとして活動
2 学期 担当教員	佐々木 友子	実務者経験	鍼灸院開業 臨床経験 15 年以上
3 学期 担当教員	篠塚 知恵子	実務者経験	2015 年 7 月～2016 年 3 月 鍼灸院に所属 鍼灸院にて鍼灸施術をおこなう

学習内容	先哲が臨床でよく使う経穴の主治、取穴、刺鍼法、施灸法を学ぶ。 古代九鍼（接触鍼、摩擦鍼）、十二刺を学ぶ。
到達目標	頻用穴を取穴し、安全に且つスムーズに刺鍼、施灸ができる。 古代九鍼、十二刺を覚え、臨床で応用できる。

準備学習 時間外学習	経穴の取穴部位の学習。刺鍼練習台等で刺鍼練習、紙上施灸により基本技術を繰り返す。
使用教材	配布プリント、経絡経穴学の教科書 ディスプレイ鍼、小児鍼セット、審美六鍼、もぐさ、灸点紙
留意点 備 考	学校で決められたこと（容姿、準備、片付けなど）を守る。 実技は危険を伴うことがあるので、私語を慎み、説明をよく聞き、慎重に行う。

成績評価	本試験 100%で評価する。
------	----------------

1 学期 授業計画【内容・目標】		
1	導入	・ 授業の内容・評価方法の説明を行い、授業に対する目的を決めてもらう。 ・ 鍼灸のおもしろさを体感してもらい、運動療法にふれる。
2	スポーツ鍼灸 1	【姿勢評価①】 ・ 簡易姿勢評価、ROM、MMT を行い、身体を客観的に評価していく。 ・ 下腿部浮腫と筋緊張をとり、姿勢を整えるようになる。
3	スポーツ鍼灸 2	【姿勢評価②】 ・ 簡易姿勢評価、バランス評価を行い、身体を客観的に評価していく。 ・ 筋膜に対して鍼のアプローチが出来るようになり、循環障害改善が出来るようになる。
4	スポーツ鍼灸 3	【足関節捻挫】 ・ 簡易姿勢評価を行い、身体を客観的に評価していく。 ・ 関係筋と経穴の確認を行い、足関節捻挫を鍼灸施術で対応出来るようになる。 ・ 施術と平行に行う運動、ストレッチもアドバイス出来るようになる。
5	スポーツ鍼灸 4	【シンスプリント】 ・ 簡易姿勢評価を行い、身体を客観的に評価していく。 ・ 関係筋と経穴の確認を行い、シンスプリントを鍼灸施術で対応出来るようになる。 ・ 施術と平行に行うストレッチもアドバイス出来るようになる。
6	スポーツ鍼灸 5	【肉離れ】 ・ 簡易姿勢評価を行い、身体を客観的に評価していく。 ・ 関係筋と経穴の確認を行い、肉離れを鍼灸施術で対応出来るようになる。 ・ 施術と平行に行うストレッチもアドバイス出来るようになる。
7	スポーツ鍼灸 6	【野球肘・テニス肘】 ・ 簡易姿勢評価を行い、身体を客観的に評価していく。 ・ 関係筋と経穴の確認を行い、野球肘・テニス肘を鍼灸施術で対応出来るようになる。 ・ 施術と平行に行うストレッチもアドバイス出来るようになる。
8	スポーツ鍼灸 7	【腰部痛】 ・ 簡易姿勢評価を行い、身体を客観的に評価していく。 ・ 関係筋と経穴の確認を行い、腰部痛を鍼灸施術で対応出来るようになる。 ・ 施術と平行に行うストレッチもアドバイス出来るようになる。
9	スポーツ鍼灸 8	【復習】 ・ 簡易姿勢評価の小テストを行う。 ・ 今までの疾患に対しての再確認を行い、鍼灸施術で対応出来るようになる。
10	試験	試験

11	試験	試験
12	スポーツ鍼灸 9	【フィードバック・頭皮針】 ・期末試験に対するフィードバックを行う。 ・座位で行う鍼灸施術方法を学び、どのような場面でも対応できるようになる。

2 学期 授業計画【内容・目標】		
1	オリエンテーション	治療の実際
2	眼精疲労の治療	弁証、治療法、実技指導
3	便秘の治療	弁証、治療法、実技指導
4	眩暈の治療	弁証、治療法、実技指導
5	肩こりの治療	弁証、治療法、実技指導
6	不眠の治療	弁証、治療法、実技指導
7	温灸	様々な治療について、実技指導
8	月経不調の治療	弁証、治療法、実技指導
9	月経困難症の治療	弁証、治療法、実技指導
10	試験	試験
11	試験	試験
12	まとめ	まとめ

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	美容鍼灸理論	顔面部の解剖【肌理論】について説明できる。
2	美容鍼灸理論	美容医療の現状について説明できる。
3	美容鍼灸理論	肌トラブルについての言葉を列挙できる。 肌トラブルについて説明できる。
4	美容鍼灸理論	美容鍼灸の効果・効能について説明できる。 美容鍼灸で対称となる表情筋群の名称を列挙できる。
5	美容鍼灸実技	クライアントへのカウンセリングを実践できる。
6	美容鍼灸実技	顔面部への施術部位の確認ができる。 顔面部への施術を実践できる。
7	美容鍼灸実技	カウンセリングの情報をもとに施術内容の立案・実施ができる。
8	美容鍼灸実技	カウンセリングの情報をもとに施術内容の立案・実施ができる。
9	試験前復習	3 学期に学んだ内容を説明できる。 3 学期で学んだ内容を実践できる。
10	試験	試験
11	試験	試験
12	美容鍼灸実践	クライアントへのカウンセリングの実施し要望を聴取できる。 要望より施術内容の立案・実践ができる。

科目

【英】	はりきゅう実技⑪～中医診断治療学Ⅱ～ 【Practice of Acupuncture and Moxibustion】			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	72	単 位	2
学 年	3 年生	学 期	通 年	曜 日	土曜	時 限	1.2 限目

担当教員	副田 恵子	実務者経験	1999 年 4 月～鍼灸院開院 鍼灸院及び往診にて鍼灸施術をおこなう
------	-------	-------	--

学習内容	実際の臨床で使う経絡経穴を使用し、手技の応用や体表観察の技術を疾患ごとに身につける。
到達目標	1、2 年生で習得した手技を発展させ、臨床に生きる治療技術の習得を目標とする。

準備学習 時間外学習	各疾患の東洋医学的理解の復習
使用教材	鍼灸道具 配布プリント
留意点 備考	副教材として経絡経穴概論の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	毎授業に小テストを実施。期末試験 70%＋小テスト 30%で評価する。
------	-------------------------------------

1 学期 授業計画【内容・目標】		
1	2 年時の復習	2 年時で学んだ手技の理解と確認。 小テストで 80%の内容理解到達を目標とする。
2	肩こり①	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで 80%の内容理解到達を目標とする。
3	肩こり②	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで 80%の内容理解到達を目標とする。
4	腰痛①	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで 80%の内容理解到達を目標とする。
5	腰痛②	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで 80%の内容理解到達を目標とする。
6	膝痛①	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで 80%の内容理解到達を目標とする。
7	膝痛②	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで 80%の内容理解到達を目標とする。
8	脱毛症①	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで 80%の内容理解到達を目標とする。
9	脱毛症②	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで 80%の内容理解到達を目標とする。
10	試験	試験
11	試験	試験
12		

2 学期 授業計画【内容・目標】		
1	顔面痛①	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
2	顔面痛②	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
3	歯痛①	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
4	歯痛②	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
5	腰下肢痛①	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
6	腰下肢痛②	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
7	膝痛①	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
8	膝痛②	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
9	肩こり・頸肩腕痛①	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
10	試験	試験
11	試験	試験
12		

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	肩こり・頸肩腕痛②	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
2	月経異常①	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
3	月経異常②	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
4	食欲不振・肥満①	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
5	食欲不振・肥満②	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
6	不眠・疲労倦怠①	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
7	不眠・疲労倦怠②	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
8	後期の復習①	後期に学んだ事の復習 実技テスト練習
9	後期の復習②	後期に学んだ事の復習 実技テスト練習
10	試験	試験
11	試験	試験
12		

科目

【英】	はりきゅう実技⑨～臨床応用学Ⅰ～ 【Practice of Acupuncture and Moxibustion】			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	72	単 位	2
学 年	3 年生	学 期	通 年	曜 日	1.2 学期：火 曜 3 学期：金曜	時 限	2 限

1.2 学期 担当教員	翁 祖耀	実務者経験	1974 年～ おきな鍼灸治療院 開業
3 学期 担当教員	川内 良典	実務者経験	様々流派の治療法を学び、『素問』『靈枢』の医古文が最も重要であることを実感する。現在『素問』『靈枢』を臨床に応用し、鍼灸を行う。

学習内容	1.2 学期：疾患をあげ、その疾患で使用する経穴の穴性を説明し何故この疾患の時に使用されるのかを理解する。技術においても疾患・症状・状態に適応した技術を行えるようにする。 3 学期：『素問』『靈枢』十二刺、経絡、重要穴を臨床に応用する。
到達目標	1.2 学期：臨床実習や卒後の知識・技術の向上を達成目標とする。 3 学期：上手下手、評価にとらわれず、自ら考え、積極的に臨床を行えるようになる。 『素問』『靈枢』の記載を臨床応用できる力をつける。

準備学習 時間外学習	1.2 学期：経穴の取穴部位の学習。刺鍼練習台等で刺鍼練習、紙上施灸により基本技術を繰り返す。 3 学期：五臓六腑の病証、十二経脈の流注及び病証、五行穴、要穴を覚えておくこと。
使用教材	配布プリント、経絡経穴学の教科書 ディスプレイ鍼、小児鍼セット、審美六鍼、もぐさ、灸点紙
留意点 備 考	学校で決められたこと（容姿、準備、片付けなど）を守る。 実技は危険を伴うことがあるので、私語を慎み、説明をよく聞き、慎重に行う。

成績評価	1.2 学期：実技試験 70 点 平常点 30 点 3 学期：本試験 100% で評価する。【本試験は実技と、口頭試問または筆記試験で行う。】※平常点の加減あり
------	---

1 学期 授業計画【内容・目標】		
1	1・2 年次の復習①	・手の要穴の取穴 ・取穴への刺鍼練習及び刺入寸度の確認
2	1・2 年次の復習②	・手の要穴の取穴 ・取穴への刺鍼練習及び刺入寸度の確認
3	鍼灸実技実習①	・鍼灸実技の注意点 ・医療過誤とその対処法について
4	鍼灸実技実習②	・背部の取穴と刺鍼 ・腹部の取穴と刺鍼
5	鍼灸実技実習③	・灸練習（米粒大、半米粒大）紙上灸・八分灸（人体）
6	運動器系疾患①	・運動器系疾患の治療法について
7	運動器系疾患②	関節系疾患について （股関節・膝関節・足関節ほか）
8	運動器系疾患③	・五十肩・腱板炎・野球肘ほか
9	運動器系疾患④	・骨膜、筋および腱疾患について （腱鞘炎、肉離れ、寝違いほか）
10	試験	試験
11	試験	試験
12	まとめ	

2 学期 授業計画【内容・目標】		
1	1 学期の復習①	・運動器疾患について
2	1 学期の復習②	・運動器疾患について
3	運動器系疾患⑤	・その他の症候群について (急性腰痛、慢性腰痛、椎間板ヘルニアほか)
4	運動器系疾患⑥	・その他の症候群について (急性腰痛、慢性腰痛、椎間板ヘルニアほか)
5	運動器系疾患⑦	・頸肩腕症候群について (肩こり、胸郭出口症候群ほか)
6	神経系疾患①	・神経系疾患の治療法について (三叉神経痛、後頭神経痛ほか)
7	神経系疾患②	・神経系疾患の治療法について (肋間神経痛ほか)
8	神経系疾患③	・神経系疾患の治療法について (坐骨神経痛ほか)
9	神経系疾患④	・その他の神経系疾患について (顔面神経麻痺ほか)
10	試験	試験
11	試験	試験
12	まとめ	

授業計画【内容・目標】		
1	オリエンテーション、 十二刺	十二刺概要。報刺、恢刺、斉刺の解説、実技指導 報刺、恢刺、斉刺を安全に臨床で応用できる。
2	十二刺	揚刺、直鍼刺、短刺の解説、実技指導 揚刺、直鍼刺、短刺を暗線に臨床で応用できる。
3	十二刺	浮刺、陰刺、傍鍼刺の解説、実技指導 浮刺、陰刺、傍鍼刺を安全に臨床で応用できる。
4	俞募配穴（偶刺） 1	十二経脈・臓腑の診断、腹部募穴の取穴、触診、刺鍼、施灸法。 診断から選穴に結びつける。内臓の部位を確認し、募穴に安全に刺鍼、施灸を行う。
5	俞募配穴（偶刺） 2	十二経脈・臓腑の診断、背部俞穴の取穴、触診、刺鍼、施灸法。 診断から選穴に結びつける。内臓の部位を確認し、背部俞穴に安全に刺鍼、施灸を行う。
6	原穴（輪刺）	十二経脈・臓の診断、原穴の取穴、触診、刺鍼、施灸法。 診断から選穴に結びつける。臨床に応用する。
7	下合穴（遠道刺）	十二経脈・腑の診断、俞穴の取穴、触診、刺鍼、施灸法。 診断から選穴に結びつける。臨床に応用する。
8	頸部の経穴	十二経脈・臓腑の診断、頸部の取穴、触診、刺鍼、施灸法。 診断から選穴に結びつける。臨床に応用する。
9	原絡治療	十二経脈・臓腑の診断、原絡治療。 診断から主客を決め、臨床に応用する。
10	試験	試験
11	試験	試験
12	まとめ	今までの実技の総まとめ 十二経脈・臓腑の診断を行い、選穴し、治療を行う。

科 目

【英】	臨床実習② 【Clinical Education】			必修/選択	必修	授業形式	臨床実習
				総時間数	90	単 位	3
学 年	3 年生	学 期	通 年	曜 日	火・金曜	時 限	1 限

担当教員	丸茂 美保子	実務者経験	1992 年～2004 年 鍼灸院、整形外科に所属 2004 年～2014 年 教員養成・専門学校専任教員 2014 年開業
担当教員	村上 朱保	実務者経験	臨床検査技師、はり師きゅう師の国家資格、進級教員免許を保有 臨床検査技師として病院にて 10 年 9 か月 鍼灸師として 7 年間の臨床経験あり 中国の大学病院において中医師インターンとして 5 年間の実務経験あり 2015 年～鍼灸専門学校にて講義・実習を担当

学習内容	学内臨床施設にて学生や学外の患者への対応を実習担当教員の監視の下、実習をおこなう。
到達目標	臨床現場にて、医療面接から得た情報をもとに治療への方針を計画し、実施できる。

準備学習 時間外学習	3 年次までに学んだ事柄をまとめておく。
使用教材	鍼灸施術用具
留意点 備 考	・基本的には 100%出席にて評価対象となる。 ・担当教員の指導に従う。

成績評価	別紙『臨床実習ガイドライン』参照
------	------------------

1 学期 授業計画【内容・目標】		
1	オリエンテーション	臨床実習についてのオリエンテーション カルテ記載の方法など
2	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
3	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
4	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
5	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
6	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
7	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
8	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
9	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
10	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
11	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
12	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習

2 学期 授業計画【内容・目標】		
1	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
2	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
3	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
4	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
5	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
6	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
7	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
8	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
9	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
10	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
11	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
12	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
2	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
3	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
4	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
5	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
6	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
7	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
8	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
9	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
10	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
11	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
12	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習

科 目

【英】	総合領域① 【Synthetic Education】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	72	単 位	4
学 年	3 年生	学 期	通年	曜 日	1 学期：火金 2 学期：火金 3 学期：木曜	時 限	1 学期：1 限 2 学期：1 限 3 学期：2 限

1 学期 担当教員	篠塚 知恵子	1 学期 実務者経験	2015 年 7 月～2016 年 3 月 鍼灸院に所属 鍼灸院にて鍼灸施術をおこなう				
2.3 学期 担当教員	山口 隆平	2.3 学期 実務者経験	野々村整形外科クリニック（平成 16 年 4 月～平成 17 年 10 月）				

学習内容	はり師・きゅう師国家試験に準じた内容の学習をおこなう。						
到達目標	国家試験に合格できる程度の学力をつける。						

準備学習 時間外学習	1.2 年生で学習した内容を復習しておく。						
使用教材	配布資料あり						
留意点 備 考							

成績評価	1.3 学期：平常点【小テスト】にて評価【100%】 2 学期：定期試験+小テストにて評価						
------	---	--	--	--	--	--	--

1 学期 授業計画【内容・目標】		
1	衛生学・公衆衛生学①	国家試験対策 国家試験に出題される衛生学・公衆衛生学の範囲の言葉を想起できる。
2	衛生学・公衆衛生学②	国家試験対策 国家試験に出題される衛生学・公衆衛生学の範囲の言葉を想起できる。
3	衛生学・公衆衛生学③	国家試験対策 国家試験に出題される衛生学・公衆衛生学の範囲の言葉を想起できる。
4	衛生学・公衆衛生学④	国家試験対策 国家試験に出題される衛生学・公衆衛生学の範囲の言葉を想起できる。
5	衛生学・公衆衛生学⑤	国家試験対策 国家試験に出題される衛生学・公衆衛生学の範囲の言葉を想起できる。
6	衛生学・公衆衛生学⑥	国家試験対策 国家試験に出題される衛生学・公衆衛生学の範囲の言葉を想起できる。
7	病理学①	国家試験対策 国家試験に出題される病理学の範囲の言葉を想起できる。
8	病理学②	国家試験対策 国家試験に出題される病理学の範囲の言葉を想起できる。
9	病理学③	国家試験対策 国家試験に出題される病理学の範囲の言葉を想起できる。
10	病理学④	国家試験対策 国家試験に出題される病理学の範囲の言葉を想起できる。
11	病理学⑤	国家試験対策 国家試験に出題される病理学の範囲の言葉を想起できる。
12	病理学⑥	国家試験対策 国家試験に出題される病理学の範囲の言葉を想起できる。

2 学期 授業計画【内容・目標】		
1	肝臓・胆のう・膵臓	解剖・生理について説明できる。
2	肝臓・胆のう・膵臓	疾患について想起できる。
3	腎臓・泌尿器	解剖・生理について説明できる。
4	腎臓・泌尿器	解剖・生理について説明できる。
5	腎臓・泌尿器	疾患について想起できる。
6	消化器	解剖・生理について説明できる。
7	消化器	解剖・生理について説明できる。
8	消化器	疾患について想起できる。
9	膠原病	典型6疾患を列挙できる。
10	膠原病	疾患について想起できる。
11	生殖器	男性生殖器について説明できる。
12	生殖器	女性生殖器について説明できる。

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	婦人科疾患	子宮頸癌～子宮内膜症について説明できる。
2	眼科疾患	解剖の言葉を列挙できる。 疾患について想起できる。
3	内分泌	解剖・生理について説明できる。
4	内分泌	生理について説明できる。
5	内分泌	疾患について想起できる。
6	呼吸器疾患	閉塞性呼吸器疾患について説明できる。
7	呼吸器疾患	拘束性呼吸器疾患について説明できる。
8	病理学	総まとめ
9	病理学	総まとめ
10	病理学	総まとめ
11	血液疾患	貧血
12	血液疾患	白血病・紫斑病・血友病

科 目

【英】	総合領域② 【Synthetic Education】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	72	単 位	4
学 年	3 年生	学 期	通 年	曜 日	1 学期：木曜 2 学期：土曜 3 学期：火金	時 限	1 学期：1 限 2 学期：1.2. 限 3 学期：1 限

1.2 学期 担当教員	高木 健之	実務者経験	専門学校臨床施設にて2年間施術を担当し実務経験を得る				
3 学期 担当教員	後藤 卓	実務者経験	2001 年 4 月～2003 年 3 月 鍼灸院に所属 鍼灸院にて鍼灸施術をおこなう				

学習内容	はり師・きゅう師国家試験に準じた内容の学習をおこなう。						
到達目標	国家試験に合格できる程度の学力をつける。						

準備学習 時間外学習	1.2 年生で学習した内容を復習しておく。						
使用教材	配布資料あり						
留意点 考 考							

成績評価	1 学期：本試【70%】+小テスト【30%】 2.3 学期：平常点【小テスト】にて評価【100%】						
------	---	--	--	--	--	--	--

1 学期 授業計画【内容・目標】		
1	東洋医学臨床論	国家試験対策 国家試験に出題される東洋医学系の範囲の言葉を想起できる。
2	東洋医学臨床論	国家試験対策 国家試験に出題される東洋医学系の範囲の言葉を想起できる。
3	東洋医学臨床論	国家試験対策 国家試験に出題される東洋医学系の範囲の言葉を想起できる。
4	東洋医学臨床論	国家試験対策 国家試験に出題される東洋医学系の範囲の言葉を想起できる。
5	東洋医学臨床論	国家試験対策 国家試験に出題される東洋医学系の範囲の言葉を想起できる。
6	東洋医学臨床論	国家試験対策 国家試験に出題される東洋医学系の範囲の言葉を想起できる。
7	東洋医学臨床論	国家試験対策 国家試験に出題される東洋医学系の範囲の言葉を想起できる。
8	東洋医学臨床論	国家試験対策 国家試験に出題される東洋医学系の範囲の言葉を想起できる。
9	東洋医学臨床論	国家試験対策 国家試験に出題される東洋医学系の範囲の言葉を想起できる。
10	東洋医学臨床論	国家試験対策 国家試験に出題される東洋医学系の範囲の言葉を想起できる。
11	東洋医学臨床論	国家試験対策 国家試験に出題される東洋医学系の範囲の言葉を想起できる。
12	東洋医学臨床論	国家試験対策 国家試験に出題される東洋医学系の範囲の言葉を想起できる。

2 学期 授業計画【内容・目標】		
1	国家試験対策①	衛生学・公衆衛生学の言葉を列挙できる
2	国家試験対策②	解剖学の言葉を列挙できる
3	国家試験対策③	解剖学の言葉を列挙できる
4	国家試験対策④	解剖学の言葉を列挙できる
5	国家試験対策⑤	生理学の言葉を列挙できる
6	国家試験対策⑥	生理学の言葉を列挙できる
7	国家試験対策⑦	病理学の言葉を列挙できる
8	国家試験対策⑧	臨床医学総論の言葉を列挙できる
9	国家試験対策⑨	臨床医学総論の言葉を列挙できる
10	国家試験対策⑩	臨床医学各論の言葉を列挙できる
11	国家試験対策⑪	臨床医学各論の言葉を列挙できる
12	国家試験対策⑫	臨床医学各論の言葉を列挙できる

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	国家試験対策①	東洋医学概論の言葉を列挙できる
2	国家試験対策②	東洋医学概論の言葉を列挙できる
3	国家試験対策③	東洋医学概論の言葉を列挙できる
4	国家試験対策④	東洋医学概論の言葉を列挙できる
5	国家試験対策⑤	東洋医学概論の言葉を列挙できる
6	国家試験対策⑥	東洋医学概論の言葉を列挙できる
7	国家試験対策⑦	東洋医学臨床論の言葉を列挙できる
8	国家試験対策⑧	東洋医学臨床論の言葉を列挙できる
9	国家試験対策⑨	東洋医学臨床論の言葉を列挙できる
10	国家試験対策⑩	東洋医学臨床論の言葉を列挙できる
11	国家試験対策⑪	東洋医学臨床論の言葉を列挙できる
12	国家試験対策⑫	東洋医学臨床論の言葉を列挙できる

科 目

【英】	総合領域③ 【Synthetic Education】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	24	単 位	1
学 年	3 年生	学 期	3 学期	曜 日	水曜	時 限	2 限

担当教員	松本 栞	実務者経験	2013 年 3 月～2014 年 9 月 鍼灸整骨院に所属 鍼灸治療を担当
------	------	-------	---

学習内容	はり師・きゅう師国家試験に準じた内容の学習をおこなう。
到達目標	国家試験に合格できる程度の学力をつける。

準備学習 時間外学習	1.2 年生で学習した内容を復習しておく。
使用教材	配布資料あり
留意点 備考	

成績評価	小テストにて評価【100%】
------	----------------

1 学期 授業計画【内容・目標】		
1	東洋医学臨床論	国家試験対策 国家試験に出題される東洋医学系の範囲の言葉を想起できる。
2	東洋医学臨床論	国家試験対策 国家試験に出題される東洋医学系の範囲の言葉を想起できる。
3	東洋医学臨床論	国家試験対策 国家試験に出題される東洋医学系の範囲の言葉を想起できる。
4	東洋医学臨床論	国家試験対策 国家試験に出題される東洋医学系の範囲の言葉を想起できる。
5	東洋医学臨床論	国家試験対策 国家試験に出題される東洋医学系の範囲の言葉を想起できる。
6	東洋医学臨床論	国家試験対策 国家試験に出題される東洋医学系の範囲の言葉を想起できる。
7	東洋医学臨床論	国家試験対策 国家試験に出題される東洋医学系の範囲の言葉を想起できる。
8	東洋医学臨床論	国家試験対策 国家試験に出題される東洋医学系の範囲の言葉を想起できる。
9	東洋医学臨床論	国家試験対策 国家試験に出題される東洋医学系の範囲の言葉を想起できる。
10	東洋医学臨床論	国家試験対策 国家試験に出題される東洋医学系の範囲の言葉を想起できる。
11	東洋医学臨床論	国家試験対策 国家試験に出題される東洋医学系の範囲の言葉を想起できる。
12	東洋医学臨床論	国家試験対策 国家試験に出題される東洋医学系の範囲の言葉を想起できる。

科目

【英】	総合領域④ 【Synthetic Education】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	24	単 位	1
学 年	3 年生	学 期	3 学期	曜 日	水曜	時 限	2 限

担当教員	藤原 法香	実務者経験	2017 年 4 月～2018 年 10 月 鍼灸整骨院に所属 鍼灸整骨院にて鍼灸施術をおこなう。
------	-------	-------	--

学習内容	はり師・きゅう師国家試験に準じた内容の学習をおこなう。
到達目標	国家試験に合格できる程度の学力をつける。

準備学習 時間外学習	1.2 年生で学習した内容を復習しておく。
使用教材	配布資料あり
留意点 備 考	

成績評価	小テストにて評価【100%】
------	----------------

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	生理学	生理学の言葉を列挙できる。 国家試験に出題される生理学の内容を説明できる。
2	生理学	生理学の言葉を列挙できる。 国家試験に出題される生理学の内容を説明できる。
3	生理学	生理学の言葉を列挙できる。 国家試験に出題される生理学の内容を説明できる。
4	生理学	生理学の言葉を列挙できる。 国家試験に出題される生理学の内容を説明できる。
5	生理学	生理学の言葉を列挙できる。 国家試験に出題される生理学の内容を説明できる。
6	生理学	生理学の言葉を列挙できる。 国家試験に出題される生理学の内容を説明できる。
7	臨床医学各論	臨床医学各論の言葉を列挙できる。 国家試験に出題される臨床医学各論の内容を説明できる。
8	臨床医学各論	臨床医学各論の言葉を列挙できる。 国家試験に出題される臨床医学各論の内容を説明できる。
9	臨床医学各論	臨床医学各論の言葉を列挙できる。 国家試験に出題される臨床医学各論の内容を説明できる。
10	臨床医学各論	臨床医学各論の言葉を列挙できる。 国家試験に出題される臨床医学各論の内容を説明できる。
11	臨床医学各論	臨床医学各論の言葉を列挙できる。 国家試験に出題される臨床医学各論の内容を説明できる。
12	臨床医学各論	臨床医学各論の言葉を列挙できる。 国家試験に出題される臨床医学各論の内容を説明できる。

科 目

【英】	総合領域⑤ 【Synthetic Education】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	24	単 位	1
学 年	3 年生	学 期	3 学期	曜 日	月曜	時 限	1 限

担当教員	藤田 和樹	実務者経験	2012 年～2015 年 整骨院勤務 治療補助など担当 2009 年～高校ラグビー部トレーナー帯同 AT 業務全般担当				
------	-------	-------	---	--	--	--	--

学習内容	はり師・きゅう師国家試験に準じた内容の学習をおこなう。						
到達目標	国家試験に合格できる程度の学力をつける。						

準備学習 時間外学習	1.2 年生で学習した内容を復習しておく。						
使用教材	配布資料あり						
留意点 備考							

成績評価	小テストにて評価【100%】						
------	----------------	--	--	--	--	--	--

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	解剖学	筋骨格系の解剖の言葉を列挙できる。
2	解剖学	筋骨格系の解剖の言葉を列挙できる。
3	解剖学	筋骨格系の解剖の言葉を列挙できる。
4	解剖学	筋骨格系の解剖の言葉を列挙できる。
5	解剖学	筋骨格系の解剖の言葉を列挙できる。
6	臨床医学各論	整形外科分野の疾患を想起できる。 整形外科分野の疾患について説明できる。
7	臨床医学各論	整形外科分野の疾患を想起できる。 整形外科分野の疾患について説明できる。
8	臨床医学各論	整形外科分野の疾患を想起できる。 整形外科分野の疾患について説明できる。
9	臨床医学各論	整形外科分野の疾患を想起できる。 整形外科分野の疾患について説明できる。
10	臨床医学各論	整形外科分野の疾患を想起できる。 整形外科分野の疾患について説明できる。
11	リハビリテーション 医学	国家試験に出題される範囲のリハビリテーション医学の言葉を列挙できる。
12	リハビリテーション 医学	国家試験に出題される範囲のリハビリテーション医学の言葉を列挙できる。

科 目

【英】	総合領域⑥ 【Synthetic Education】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	24	単 位	1
学 年	3 年生	学 期	3 学期	曜 日	水曜	時 限	1 限

担当教員	山口 隆平	実務者経験	野々村整形外科クリニック（平成16年4月～平成17年10月）
------	-------	-------	--------------------------------

学習内容	はり師・きゅう師国家試験に準じた内容の学習をおこなう。
到達目標	国家試験に合格できる程度の学力をつける。

準備学習 時間外学習	1.2年生で学習した内容を復習しておく。
使用教材	配布資料あり
留意点 考 考	

成績評価	小テストにて評価【100%】
------	----------------

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	経絡経穴概論 東洋医学概論	督脈の取穴部位を説明できる。 気・血・津液の復習
2	経絡経穴概論 東洋医学概論	任脈の取穴部位を説明できる。 五臓の復習
3	経絡経穴概論 東洋医学概論	肺経・大腸経の取穴部位を説明できる。 六腑の復習
4	経絡経穴概論 東洋医学概論	胃経の取穴部位を説明できる。 奇恒の腑の復習
5	経絡経穴概論 東洋医学概論	脾経・心経の取穴部位を説明できる。 病因（外因・内因・不内外因）の復習
6	経絡経穴概論 東洋医学概論	小腸経の取穴部位を説明できる。 八綱病証と気血津液病証
7	経絡経穴概論 東洋医学概論	膀胱経の取穴部位（睛明～会陽）を説明できる。
8	経絡経穴概論 東洋医学概論	膀胱経の取穴部位（承扶～至陰）を説明できる。
9	経絡経穴概論 東洋医学概論	腎経の取穴部位を説明できる。 経絡病証と六経病証
10	経絡経穴概論 東洋医学概論	心包経・三焦経の取穴部位を説明できる。 四診（望診）
11	経絡経穴概論 東洋医学概論	胆経の取穴部位を説明できる。 四診（聞診・問診）
12	経絡経穴概論 東洋医学概論	肝経の取穴部位 奇経八脈を説明できる。 四診（切診）